

学報

No. 120

平成24年5月10日発行

上越教育大学

(掲載期間：平成24年3月1日～平成24年4月30日)

目次

◇平成23年度上越教育大学学位記授与式……………1	
■学長告辞	
◇平成23年度上越教育大学卒業証書・学位記授与式……………4	
■学長告辞	
◇平成24年度上越教育大学大学院入学式……………7	
■学長告辞	
◇平成24年度上越教育大学入学式……………10	
■学長告辞	
◇学事……………13	
■大学院入試（後期募集）	
■学部一般入試（後期日程）	
■兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の学位記授与式	
■兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の入学式	
■学生表彰式	
■平成23年度課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修	
■平成23年度「海外教育（特別）研究B」	
■平成24年度新入生オリエンテーション	
■情報セキュリティ講演会	

■新入生ノートパソコン準備講習会	
■平成24年度新入生（合宿）研修	
◇人事……………18	
■役員等紹介	
■人事異動	
■学内委員会等委員	
◇一般通報事項……………53	
■役員会	
■経営協議会	
■教育研究評議会	
■教授会	
■平成23年度上越教育大学国際交流のつどい	
■退職者永年勤続表彰状授与式	
■叙位・叙勲	
■平成24年度新入生図書館利用ガイダンス	
■平成24年度文献の探し方ガイダンス	
■附属図書館利用案内全体会	
■公開講座・免許法認定公開講座	
■海外渡航	
◇関係資料……………70	
◇主要日誌……………73	

平成 23 年度上越教育大学学位記授与式

平成 23 年度の学位記授与式が 3 月 19 日(月)午前 9 時 30 分から本学講堂で挙行された。式は、学生歌演奏、学位記授与、学長告辞、修了生代表答辞、来賓紹介と進行し、蛍の光をもって閉会となった。

学長告辞は次のとおりである。

学 長 告 辞

学長 若 井 彌 一

ただ今、学位記を授与された 282 名の皆さん、大学院での厳しい研究と修養が認められたこと、おめでとうございます。精神的には勿論のこと、身体的にもなかなか、きつい日々であったことと思います。

振り返ってみますと、ほぼ一年前の 3 月 11 日の大震災は、余りにも甚大な災害でありました。それ以後の大学としての対応は、何よりも学生自身の安全確認を優先しなければならぬと判断し、確認作業を進めました。全学生の安全確認が出来たのは、4 月 4 日になってのことでした。

皆さんは、それぞれ、どんな体験をし、何を考え、何をしなくてはならないと考えての一年であったでありませんか。辛い体験をしたり、現在もその辛さを抱えている人もいるかと思いますが、我々、直接的な身体的な災害の危険をまぬがれて生き延びることのできた者達は、互いに助け合って、気丈夫に震災復興に向かって、直接、間接に力を注ぎたいと思います。

皆さんの多くは、教育界、具体的には、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等において、教員として活躍していくことになるものと期待しております。

大学院で学んだ人達である皆さんは、「教育」という仕事が社会的にどのような意味を有する活動あるいは営みであるかを相当踏み込んで考える機会を得たことであろうと思います。教師や教育について、名文句を残している人々は、一、二にとどまりませんが、私は本日、皆さんに、フランスの詩人、ルイ・アラゴン（1898 年 10 月 3 日～1982 年 12 月 24 日）が残した「教えるとは希望を語ること、学ぶとは誠実を心に刻むこと」という言葉を贈りたいと思います。この詩は広く知られているように、1943 年に当時のナチスの弾圧によって、ストラスブール大学の教授や学生が銃殺されたり、逮捕されたりしたことを悼んで作った「ストラスブール大学の詩」の一部であります。

約 70 年の歳月が経過しているとは言うものの、様々な行き詰まり現象が肥大化し、それを強引な「力」（警察力・軍事力）によって解決していこうとする動きが顕著になってきて

いるという点では、非常に似かよっている動きが見られるのが、昨今の国際的状況であります。そして大震災による超巨大な負債を国民が背負うことになったのみならず、我が国の政治は、国内的にも国際的にも大きな試練の時期に入っていることを皆さんも、およそではあっても感じとっていることでしょう。

「明るい材料は、何か」と考えてみても、即時に想起できるものはないというのが現実かも知れません。それどころか、東京湾岸を中心とする大規模な都市直下型地震発生の危険性についての研究調査報告がなされて、国民の不安が高まっているのが、ごく最近の状況であります。

けれども、皆さんに是非とも、忘れないで貫いて欲しいことがあります。それが「教えることは、希望を語ること」なのであります。教育の力は、政治と対比した場合、地道であり、一日一日、何をして、どんな成果が上がっているのか分からないような一面を持っています。しかし、「塵も積もれば山となる」の言葉があるように、小さな積み重ねは、大きな山となります。どうぞ、この言葉（教えるとは、希望を語ること）を忘れることなく、時代を嘆き、社会や他人、そして政治のマイナス面だけに着目したり、目を奪われて暗い顔をして児童・生徒に衰えゆくこの国と社会を断定的に語るのではなく、明日への生きる元気を、少々品のある表現をすれば、「日本という国の復興」の可能性を信じて、「何をどのように学んでいくことが国際化が進む時代において、社会的存在としての価値のある一人ひとりの生き方を支える学びとなるのか」を力強く、説明力豊かに語り育てていくことができる先生になって下さることを切に願うものであります。

皆さんが大学院で体験した、学部段階とは一味違う厳しい日々の修練（研究と修養）は、今後、皆さんが辛い局面に出くわした際の大きな支えとなってくれと信じております。個々の成果をそれぞれに確認し、また、これから何をさらに自分の研究と修養の課題としていくのか、静かに思いを巡らせてみてください。

教育界だけでなく、どの分野・領域に進んでいくとしても、「上越教育大学大学院修了」という肩書き（履歴）は、恐らく多くの場合、好意的、肯定的に受け止めてもらえるものと思います。これは、これまでの大学院OBたちが築いてきてくれた実績と言ってよいでしょう。けれども、それから後に、更に信頼され、頼りにされる人物としてそれぞれの職場さらには分野で存在感を増すかどうかは、今後の皆さんの「工夫のある継続的な努力」、即ち、研究と修養を大切にした生き方を実践・実行するかどうかにかかっていると云えます。皆さん一人ひとりが、それぞれに、自分の足跡を振り返り、現在の足場を確かめながら、周囲の人々を大切にしながら、活躍の範囲を広げ、実績を積み重ねていって下さるよう期待しております。

私の好きな歌に、小椋桂さんと堀内孝雄さんの共同作品「山河」があります。

「人は皆 山河に生まれ 抱かれ 挑み 人は皆 山河を信じ 和み 愛す
そこに生命をつなぎ 生命を刻む そして終いには 山河に帰る（還る）
顧みて 恥じることない足跡を 山に残したろうか

永遠の水面の光増す夢を 河に浮かべたろうか

愛する人の瞳に 愛する人の瞳に 俺の山河は美しいかと 美しいかと」

今日を境にして、新たな旅立ちをされるまだ若々しい皆さんに、このような人生最終ステージをイメージさせる歌は似つかわしくないかと思いつつも、この歌の歌詞のすばらしさ、深さ、重さをぜひ大切にして、時折想起して口ずさんでみてください。そして、皆さんが、ゆったりとした気持ちでそれぞれ納得のゆく人生街道を歩いて下さることを切に願って、私の告辞と致します。



平成 23 年度上越教育大学卒業証書・学位記授与式

平成 23 年度の卒業証書・学位記授与式が 3 月 19 日(月)午前 11 時 20 分から本学講堂で
挙行された。

式は、学生歌演奏、卒業証書・学位記授与、学長告辞、卒業生代表答辞、来賓紹介、学
生表彰と進行し、蛍の光をもって閉会となった。

学長告辞は次のとおりである。

学 長 告 辞

学長 若 井 彌 一

ただ今、卒業証書を授与された 161 名の皆さん、学部での皆さん一人ひとりの学びの努
力が認められて、本日晴れて卒業式という運びになったその努力を称え、心から祝意を表
したいと思います。子どもさんの頑張る姿を祈るような気持ちで全国各地から見守って来
られた保護者やご家族の皆さんにも、心からおよろこびを申し上げます。

さて、皆さんにとって、上教大での 4 年間は、楽しいことばかりではなく、大小の程度
は様々なれど、辛いことも少なからずあったことと思います。特に、この 1 年間は、「あば
れる自然」との必死の戦いのような印象が強かったかも知れません。

昨年 3 月 11 日、巨大地震発生の際、私は学長室で数名の職員と打合せ中でありました。
揺れが長くて相当な規模の地震であることを直感いたしました。3 時過ぎから次々と報道
される映像は、余りにもショッキングなものであり、私は、特に約 14 年間生活していた宮
城県内の各地の災害報道を信じられない思いで観ておりました。

災害の大きさ、深刻さは、時間が経過するにつれて理解の幅と内容が鮮明になり、深刻
な気持ちになっていったのであります。

皆さんは、どこで、どんな感じで、あの日生活していたでしょうか。被害の程度に違い
はありますが、あの日以後、我々は、東日本大震災を抜きにして「教育」を語りことやこ
の国の将来を語りことができなくなりました。それ程に被害程度の大きさを直視せざるを
得ない巨大災害でありました。そうであるだけに、皆さんがこうして無事に卒業する日を
迎えることができたことを、本当にありがたく、教職員一同よろこんでおります。昨年の
震災当日、一人の大学院生が大学へのメールで、津波が迫っている様子を伝えながら途中
で切れた状態になってしまい、翌日になって、生命の無事が確認できたとの報告を職員か
ら受けて、「諦めかけた宝物」を発見したような気分になったことが鮮明に想起されます。

30 名を超える学生が（入学生も含めて）、震災被害を受けていることが分かりましたが、
それでも不幸中の幸いと言うべきか、亡くなった者はおりませんでした。

余りにも、多くの方々が、亡くなられ、行方不明となってしまったので、今だに「生き残った自分」がなんだか悪いことをしたかのような思いになることもあります。我々、生き残っている者達は、それぞれの生命を大切にすることは勿論のこと、時間をかけてこの国と郷土を、治安の良い、生きている喜びを実感できる住みよい国と社会にしていくように誠実に努めていきたいと考えます。

今回の災害のように、自然は時に、突然暴れ出して、我々に襲いかかることがあります。特に我が国の場合、地震が多く、また、雨や雪による災害も規模の大小の違いはあれ、毎年のように発生しており、犠牲者が出てしまっているのが現実です。

しかし、このように、災害に苦しめられる側面だけに目を奪われてしまい、この国はもう終わり（日本沈没）というような悲観的な社会観をもって生きていくのは建設的ではありません。確かに、生きていくことは、今の時代だけでなく、嬉しいことや楽しいことばかりの連続ではありません。けれども、心・気持ちの持ちよう、同じような状況下にあっても、明るく物事を考えていく方が賢明であることは確かなように思われます。

卒業していく皆さんは、教育の世界に入って活躍していくことを志している人が多いかと思われしますので、教育者として、是非心得ておいて欲しいことを申し述べておきます。

それは、個人的（子ども）にも、集団的（学級）にも試練に耐えなくてはならない場面が沢山あり、そのような場合、教師が子どもに、「君は、もう駄目だ」「このクラスは、もう終わりだ」などと、断定的な悲観的な言い方や考え方にならないように、何事も少なくとも二面的、更には多面的に捉えて、できれば明るい側面を可能性として、それがどのようにしたら現実化できるかを根気よく知恵を捻る姿勢を一人の教師として、否、それ以前に一人の人間（社会人）として持ち続けて欲しいということです。

「人間万事、塞翁が馬」という中国の古典（淮南子）中にも出て来る故事は広く知られていますが、せめてそのような物の見方の大切さを語り、また自らの生き方をそちらに近づけていくように努めたいものです。

2010年8月に発生したチリの炭鉱事故の際、33名の労働者が、生存の可能性が危ぶまれながらも「奇跡的な全員生存」を実現できたのは、確かな見通しをもって皆を説得するリーダー的存在がいたこと、皆が力を合わせることの大切さを身に付けていたこと、などが大きな要素であったことが知られています。未来を生きていく子ども達を指導する者は、自らが夢を持って、その社会的な夢は、どのようにすると実現できるのかを、順序立てて、子ども達に説明していただくだけの知的教養と教師としての専門的力量が不可欠です。

教育基本法でも、不断の研究と修養を強調しているのは、そのためであります（9条2項）。

学校は単なる「子ども預かり場所」ではありません。目標を持って、計画的、組織的に子ども達を鍛えていくことを使命としております。言わば「人間道場」なのです。

このことは、教育基本法において「(前項の)学校においては、教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない

らない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。」と定めていることを（6条2項）是非心にとめておいてください。そして、この趣旨を日々の教育実践に生かしていられるように、願っております。知と義と理とその根底を支える愛（教育的愛）に磨きをかけることを自覚して、研究と修養（人間的な研鑽）に努め、子どもとその保護者から「あの先生がいてくれたから、僕（私）は生きることに希望を失わずに頑張れた」と言われるような度量の大きな、「育みの心」を大切に、可能的存在としての子ども達に必要とされる人間的資質「生きる力」を励まし鍛えることができる専門的能力の高い教師への道を根気強く、打たれ強く進んでくれることを願い、私の告辞といたします。



平成 24 年度上越教育大学大学院入学式

平成 24 年度の大学院の入学式が 4 月 6 日(金)午前 9 時 30 分から本学講堂で挙行された。式は、学園歌演奏、学長告辞、入学生代表宣誓、来賓紹介、来賓祝辞、役員等紹介と進行し、記念演奏をもって閉会となった。

学長告辞は次のとおりである。

学 長 告 辞

学長 若 井 彌 一

ただ今、入学許可をされました 300 名の皆さん、学部から更に進んで大学院での研究と修養を決意しての進学を心から歓迎致します。

同じく高等教育と呼ばれる大学の学部と大学院ではありますが、大学院での学びがより高度なものであることは皆さんが今後、2年間あるいは3年間にわたり、大学院生活を送るにつれて実感していくことでありましょう。

本日は、皆さんそれぞれの決心に基づいて、新たな学びの階段を登り始める記念すべき日であります。その日の記憶の助けになればと願い、私の考えることをいくつか述べてみたいと思います。

先ず最初にやや強調して、是非とも実践して欲しいことを述べます。それは、研究と修養を支える基礎的体力をつけるために、それぞれのやり方で結構でありますから、毎日、大きな負担にならないように配慮しながら、健康的な身体運動を継続して欲しいということであります。

大学院と言うと、どうしても難解な研究書との戦いであつたり、また、細心の注意と根気を必要とする実験と調査を、想起するかも知れません。確かに、新たな知的水準を切り拓いていこうとするレベルの学びでありますから、そのようなイメージが間違っている訳ではありません。しかし、そのようなハイレベルの活動を支えるのは、皆さんの強い体力であり、健全な体力なしに研究活動を思うように進めることはできません。このようなごく当然のことを自覚して、体力の低下を招くことのないように、工夫のある生活を実践(実行)してください。このように分かりきったことを述べるのは、自らの大学院時代の身近な人達を思い起こしたり、その後、上教大に赴任して来てから直接・間接に指導に当たってきた人々を想起したりしての率直な思いであります。

次に、大学院での研究活動を進めるに際して、それぞれの専攻・コースごとに必要とされる基礎的な知識・理解の程度がありますので、必要とされる参考書を揃えて、分からないところが出てきたときは、面倒などと思わずに、基礎的なことを再確認するようにして

ください。参考書は、各授業科目担当の先生方が、それぞれに紹介してくれるはずですよ。

この大学院での学びによって、一年も経過すれば、皆さんは恐らく自分でも驚く程の伸びや向上を実感するであろうと思います。毎日が緊張感のある日々になるかと思われませんが、段々と慣れてきます。焦ることなく、一日一日、一時間一時間の授業をしっかりと受け、最低限のノルマとして、ノートを読み返すことを実行しましょう。

授業担当される先生方の知識の広さ、高さや深さに、最初のうちは圧倒されるかも知れませんが、それが自然なのであり、驚くことはありません。あなた方も、一年後に大学院に後輩として入学して来る新入学生に対して、そのような印象を与え得る程に飛躍的に力をつけることになるのです。大切なことは、毎日の、自覚ある継続的な積み重ねであります。

以上に述べたことは、一般的な心得と言ってもよいものです。三つめには、やや具体性のあることを述べます。それは、皆さんにはこれから、より高度な専門的著作物を読んで理解することへの挑戦が課題となるということでもあります。学会誌や専門的学術雑誌に掲載されている諸論文にどんどん挑戦してみてください。その際、ごく簡単なメモ（読書メモ）は、必ず記録として残すことを習慣づけるように実行を心掛けてください。この作業こそが、皆さんが大学院生としての水準での読書をしていることを対外的に印象づける説得力に富んだ説明力の基礎を形成することになります。数多く、目につく書物を乱読するスタイルではなく、自分の問題意識あるいは課題意識によって選択された数ページから数十ページの論文に挑戦することになります。最初のうちは時間がかかります。分からない用語も出て来ます。そして何より、思考の運び（展開）に細心の注意をしながら読解することが課題となります。

学部のレベルでありますと、例えば、卒業論文を作成するに当たっても、分野にもよりますが、それほど数多くの学術論文を読むことはないかと思われませんが、修士課程や、専門職学位課程で学ぶ皆さんが執筆する著作物には、関連の学会誌掲載の学術論文が必然的に記載されることとなります。ただ、誤解のないように念のために言いますが、数多くの参考文献や引用文献を掲げることが目的ではありません。あくまでの、あなた方一人一人の問題意識、課題意識に対応していると思われる関連文献等が掲げられていればよい訳です。

今、述べたようなことは、皆さんが授業やゼミを通して、徐々に身に付けていくことでありますので、何も心配することはありません。

最後に、もう一つのことを述べておきます。それは、今や教員養成も学部から大学院レベルでの養成に、シフトしつつあるということでもあります。そして、これからは、単に大学院を出たかどうかではなく、大学院で何を学び身に付けたかが、より厳しく問われ評価される時代になっていくと予想されるということでもあります。

我が国では、理系の学部から大学院への進学率が先行して高まってきたのでありますが、教員養成に関して言えば、ゆるやかな上昇カーブを描いてきているとも言えないのが現実であります。比較的最近でも、本学では学部卒業者のうち、大学院進学率が、平成16年度

14.4%，平成18年度7.1%，平成20年度11.5%，平成22年度6.6%，平成23年度9.3%という推移を辿っています。他の大学の場合も、概してそれほど大きな違いは見られないと言えます。

しかし、皆さんも新聞報道等で気付いているかと思いますが、現在、中央教育審議会で「教員の資質向上」方策が審議されており、教職大学院や修士課程を拡充していく方向で進んでいくことが不確定ながらも見えてきました。仔細に及んでは、今後の審議過程に注目しなくてはなりません。我が国における教員養成も、ようやく学部における養成から大学院における養成へと、一段ステップアップをすることになりそうであります。

本学は、既に述べた通り、昭和53年に教員養成系の大学院大学として注目のうちに設立されたのであり、大学院レベルでの教員養成の開拓者の役割を担って来ております。

これまでの幸いとも言えるべき実績にあぐらをかくのではなく、また反対に、2万人近い多くの死亡者や行方不明者が出てしまった昨年3月11日発生の東日本大震災や、近年緊迫の度が高まってきている外交政策、財政政策等で難題に直面しているこの国の現状と将来を、徒に一面的な悲観をするのではなく、教育を通じて、この国と社会を堅実に発展させていくという強い信念をもって、そのために我々は何を為すべきかという問いを大切に、高く、スケールの大きな志を胸に秘めてこの大学院に全国各地の大学から参集している仲間達と励まし合いながら目指すべき目標に向かって、快い汗を流したいと思います。皆さんの御健康と若者らしい発想と、教育の実践と研究に己の全力を注いでみようとする情熱に対する大きな期待を表明し、告辞の結びと致します。



平成 24 年度上越教育大学入学式

平成 24 年度の学部の入学式が 4 月 6 日(金)午後 0 時 30 分から本学講堂で挙行された。式は、学園歌演奏、学長告辞、入学生代表宣誓、来賓紹介、来賓祝辞、役員等紹介と進行し、記念演奏をもって閉会となった。

学長告辞は次のとおりである。

学 長 告 辞

学長 若 井 彌 一

ただ今、入学を許可された 166 名の皆さん、県内各地から、また、広く全国各地から、この上越教育大学に志願し、晴れて試験に合格し、入学されることになったことを心から祝福し、歓迎いたします。皆さんにとって今日という日が新たな飛躍の一步を踏み出す日になることを願い、いくつかのことを述べてみたいと思います。

先ず、最初に、皆さんが入学した上越教育大学（略称；上教大）は、教育系または教員養成系大学の拠点校（大学）の一つであります。本学は昭和 53 年 10 月 1 日、当時の国立学校設置法に基づき設立されたのでありますが、現職教員に、研修の機会を提供することを主要な任務としております大学院大学であるところに特色があります。

ただ、当時は、大学院だけの大学というのは、余りにも先走りすぎた感じがあり、学部として初等教育教員養成課程を置くこととしたのであります。実践的指導力を十分に身に付けた教員の養成に努めてきたところであり、概ね、教育関係者からは好評をいただいております。

昭和 56 年 4 月に学部の 1 期生が、また、昭和 58 年 4 月に大学院の 1 期生が入学して以来、現在に至るまで、学部が 5,265 名、大学院が 6,215 名の卒業生・修了者を世に送り出しております。また、平成 8 年度からは、兵庫教育大学、鳴門教育大学、そして岡山大学教育学部との連合による大学院博士課程を設置して研究者の養成を行っております。

これら、学部卒業生、大学院修了者の多くは、全国各地の教育界において、あるいはまた、その後更なる研鑽を積んで大学等において研究者として活躍してくれています。このような訳で、皆さんには、道なき道を開拓者として切り拓くというよりも、実力を備えた若手教員あるいは、研究者として、この国の教育実践と教育研究を、より信頼度の高いものにしていく継続ランナー、言わば「上教大ランナー」としての活躍が期待されていると言えます。

これから 4 年間、しっかりと足腰を鍛え、人間性を磨いて豊かにし、専門的な知識・思考力・判断力・技能等を身に付けられることを願うものであります。

それでは、上教大ランナーとして、何を、どのように鍛えることが必須の課題であるかについて、述べておきます。まず、掲げておくべきことは、「読書のすすめ」であります。読書は、他人の頭を借りて、知識（認識）の範囲を拡充し、考え方を学び、更に進んで何が今日的課題とされているかについての状況的認識や洞察力を強化する上で、極めて効果的であります。「唯一の方法」とは言いませんが、極めて効果的な方法であることは実証済みと言えるでしょう。読書に全く無縁で、知的専門職の一つである教職の世界で活躍していくことは不可能と言えます。

本学には、現在、約 34 万 7 千冊の蔵書があります。好きなものにどんどん挑戦してください。また、「電子ジャーナル」の利・活用も試みることをお勧めします。「習うより慣れる」(Practice makes perfect.) です。どうぞ図書館に足を運んでください。

次に、余裕があれば、部活動等に参加して、授業とは別の世界で、仲間と共に興味や得意の対象・分野を強化・向上させてくれることを期待いたします。何の分野であれ、仲間と共に努力することの大切さやすばらしさを実感し、体得していく上で、部活動は極めて効果的であります。そして、そこで学んだ「人間関係力」は、今後の皆さんの充実した人生を支えてくれるものと思います。

ただ、一つアドバイスしておきます。参考になれば幸いです。部活であれ、何であれ、人間関係で力をつけていくことのできる人は、「他人から学ぼうとする意欲と謙虚さ」を持っているということです。学校の先生をされている人達と話しをしていると、「子どもから学ぶ」という表現がよく出てきます。「学校の先生が、子どもから学ぶというのはどういうことなのか？」と、一寸不思議な気がするかも知れませんが、本当なのです。このように他人（相手方）から学ぶという姿勢を持ち続けることが、一線級の活躍をしていく上では不可欠です。人間としての資質向上を妨げる一つの大きな原因は、自分自身の心の持ち方にあるということを感じて欲しいと思います。

1966 年にユネスコにおける特別政府間会議において採択された、「教員の地位に関する勧告」(Recommendation concerning the Status of Teachers) では、その第 6 項で格調高く次のように述べています。「教育の仕事は専門職とみなされるべきである。この職業は、厳しい継続的な研究を経て獲得され、維持される専門的知識及び特別な技術を教員に要求する公共的業務の一種である。また、責任をもたされた生徒の教育および福祉に対して、個人的及び共同の責任感を要求するものである。」

本学は、このような専門職としての教育のプロ、即ち **Teaching Profession** を養成すること、そして、より広く教育に関する多様かつ多面的な研究について、その実績・成果を生み出すという社会的任務を負っている、学部、大学院修士課程、専門職学位課程、そして、連合大学院博士課程を備えており、皆さんにとっては、存分に利用活用できる条件を備えた大学であります。高い目標意識を持って、地道な努力を積むことを怠らなければ、これまで本学の **OB** の皆さんが築いてきてくれた社会的評価も幸いして、きっと希望に満ちた進路選択を実現することができるかと確信しております。小・中学校等の学校教育の実践の

プロとなっていくか、大学等の研究者として、研究のプロとなっていくかは、勉強しながら、楽しみながら段々と意欲を確かなものにしていって下さい。4年間、存分に若者としての志の高い学生生活を送ってくれることを心から願い、私の告辞と致します。

保護者の皆様には遠方の方々が多いかと思いますが、私共、教職員は、全力を尽くして学生の指導に当たって参りますので、どうぞ、この国のどこの学校へ行っても期待と信頼に応じて活躍できる力を身に付けるため、自分の子どもは上教大で頑張っていることを信じ、あたたかいご支援と激励をして下さるよう、また、大学運営につきましても何卒よろしくご協力の程、お願い申し上げます。



学 事

○大学院入試（後期募集）

平成24年度大学院学校教育研究科入学試験（後期募集）を次のとおり実施した。

修士課程は、募集人員 68人（学校教育専攻 29人，教科・領域教育専攻 39人）に対し，応募者 55人，合格者 35人であった。

専門職学位課程（教職大学院）は，募集人員 9人（教育実践リーダーコース 若干人，学校運営リーダーコース 9人）に対し，応募者 14人，合格者 13人であった。

出 願 期 間 平成24年 1月30日（月）～2月 7日（火）

試 験 日 平成24年 3月 2日（金）

合 格 発 表 平成24年 3月16日（金）

○学部一般入試（後期日程）

平成24年度学校教育学部一般入試（後期日程）を次のとおり実施した。

募集人員33人に対し，応募者306人，合格者42人であった。

出 願 期 間 平成24年 1月23日（月）～平成24年 2月 1日（水）

試 験 日 平成24年 3月12日（月）

合 格 発 表 平成24年 3月22日（木）

○兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の学位記授与式

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）の平成23年度学位記授与式が平成24年 3月27日（火）に兵庫教育大学において行われた。

なお，修了者18人のうち，本学の配属学生は2人である。

○兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の入学式

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）の平成24年度入学式が平成24年 4月12日（木）に兵庫教育大学において行われた。

なお，入学者28人のうち，本学の配属学生は3人である。

○学生表彰式

課外活動で特に顕著な成果があった学生及び学業等が特に優秀な学生等を対象に、学生表彰式を実施し、表彰状を授与するとともに、記念品を贈呈した。

期日：平成24年3月19日（月）

場所：講堂

被表彰者氏名	表 彰 事 由
学校教育学部 教科・領域教育専修 社会系コース4年 <small>ふかくさ</small> 深草めぐみ	「平成23年度北信越学生テニストーナメント大会」女子ダブルス 及び「平成23年度北信越学生テニス選手権大会」女子ダブルス 優勝
学校教育学部 教科・領域教育専修 生活健康系コース(保健体育) 4年 <small>むらほし ふみか</small> 村橋 史香	「平成23年度北信越学生テニストーナメント大会」女子ダブルス 優勝
学校教育学部 教科・領域教育専修 言語系コース（国語）4年 <small>やまぐち けいこ</small> 山口 慶子	学業成績優秀者
学校教育学部 教科・領域教育専修 言語系コース（英語）4年 <small>てらい みか</small> 寺井 美夏	学業成績優秀者

○平成23年度課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修

スキル・トレーニングや意見交換等の活動を通して、課外活動団体のリーダーとしての任務を深く認識させるとともにその資質の向上を図ること、及び課外活動団体相互の理解を深め、充実した課外活動の運営と発展に寄与するリーダーの育成を目指すことを目的として実施した。

期 日

平成24年3月8日（木）・9日（金）

（1泊2日）

場 所

国立妙高青少年自然の家

参加人員

学生：92人

団体：36団体

教職員：11人



○平成23年度「海外教育（特別）研究B」

平成23年度「海外教育（特別）研究B」を平成24年3月3日（土）から17日（土）までの15日間、アメリカ合衆国において次のとおり実施した。

【訪問先】

アイオワ大学（本学交流協定校）、近隣小・中学校及びロサンゼルス市の小学校、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校

※参加学生は、アイオワ大学での特別講義受講、現地学校で授業参観や授業実践を行ったほか、ホームステイをカリフォルニア州立大学ノースリッジ校で学生交流を行った。

【参加学生】13人

（内訳）学部学生 3人

大学院学生 10人

【引率者】

五十嵐透子 教授

生澤繁樹 講師



○平成24年度新入生オリエンテーション

新入生が、学生生活を送る上で知っておく必要がある教育課程，履修方法及び学生指導等に係る基本的知識を修得することを目的として実施した。

期日：平成24年4月6日（金），9日（月）

場所：講堂，講義棟301教室ほか

内容：〈学部〉

大学教育，教育課程と履修方法，クラス担当教員による指導ほか

〈大学院〉

大学院の教育・研究，教育課程と履修方法，個別指導，就職指導ほか

（全体）

海外教育（特別）研究及び海外派遣制度，学生指導，保健管理センターほか

○情報セキュリティ講演会

新入生及び在學生と教職員を対象として，大学における教育・研究等の学生生活において，コンピュータのウイルス感染や不正侵入，個人情報流出などの対策等，安全にコンピュータを利用するために必要不可欠である，「情報セキュリティ対策」に関して以下のとおり講演会を実施した。

期 日：平成24年4月11日（水）

場 所：講 堂

講 師：情報メディア教育支援センター 准教授 大森 康正

参加人員：学部新入生：160人 / 大学院新入生：216人 / その他5人



○新入生ノートパソコン準備講習会

新入生が各自の所有するノートパソコンを、学内において活用できるようサポートするため、次のとおり講習会を実施した。

期 日 : 平成24年4月10日(火)～24日(火) (土日を除く。)

場 所 : 教育情報訓練室2 外

講習内容 : 1) 学内ネットワーク接続の方法
2) ポータルサイト, Web メール, 講義支援システムの利用方法
3) アンチウイルスソフトの導入方法 等

参加人員 : 学部新入生 166人 / 大学院新入生 70人



○平成24年度新入生合宿研修

入学後間もない時期に集団活動(生活)を通じて、新入学生相互並びに教職員との親和を図り、お互いの理解を深め、その後の学業上・生活上の安定・充実を図ることを目的として実施した。

期 日

平成24年4月20日(金)・21日(土)

場 所

上越教育大学

参加人員

1年次学生: 166人

教職員: 24人



人 事

○役員等紹介

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事	わたなべ よしかげ 渡 部 良 和	平成24年4月1日 ～平成25年3月31日	昭和51年 5月 室蘭工業大学 昭和58年10月 文部省 平成 8年 4月 埼玉大学 平成11年 4月 文部省 平成14年 4月 日本体育・学校健康センター 平成16年 4月 国立大学法人大阪教育大学財務部長 平成18年10月 独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部長 平成22年 4月 国立大学法人上越教育大学理事
監 事 (非常勤)	もりべ ひでお 森 部 英 生	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和51年 4月 東京大学教育学部助手 昭和53年 4月 群馬大学教育学部講師 昭和55年 3月 群馬大学教育学部助教授 平成 元年 3月 群馬大学教育学部教授 (～平成19年3月) 平成 3年 4月 群馬大学教育学部附属教育実践研究指導 センター長 (～平成5年3月) 平成 5年 4月 群馬大学学生部長 (～平成9年12月) 平成13年 4月 群馬大学教育学部長 (～平成16年9月) 平成19年 4月 東京福祉大学教育学部教授 平成19年 4月 東京福祉大学教育学部長 (～平成21年3月) 平成19年 5月 群馬大学名誉教授 平成21年 4月 高崎健康福祉大学教授 平成24年 4月 高崎健康福祉大学人間発達学部長 平成24年 4月 国立大学法人上越教育大学監事
監 事 (非常勤)	もりやま あきひこ 森 山 昭 彦	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和57年 9月 等松青木監査法人 (現 監査法人トーマツ) 東京事務所 昭和64年 1月 太田昭和監査法人 (現 新日本有限責任監査法人) 新潟事務所 平成 5年 4月 森山経理事務所 平成 5年 4月 公認会計士森山昭彦事務所開設 平成13年 5月 柏崎農業協同組合監事 平成18年11月 学校法人柏専学院監事 平成24年 4月 国立大学法人上越教育大学監事

○エンジン部門

大学又は法人に置かれる教育研究等支援組織の室員等名簿

	名 称	室長等氏名	室員等氏名	事務担当	備 考
1	総合企画室	戸北 凱惟	川崎 直哉 加藤 善一 亀井 宜幸 細谷 敏明 渡邊 茂康	企画室	※室員は検討事項によりスポットで追加あり
2	評価支援室	川崎 直哉	松本 修 野村眞木夫 光永伸一郎 直原 幹 西村 俊夫 杉浦 英樹 河合 康 志村 喬 小川 茂 後藤 公夫 加藤 善一 上原 光夫	企画室	
3	知的財産本部	戸北 凱惟	黎 子椰 高石 次郎 大森 康正 山口 信幸 岡崎 明弘	研究連携室	
4	地域連携推進室	戸北 凱惟	石野 正彦 久保田善彦 齋藤 一雄 光永伸一郎 古閑 晶子 川村 知行 水落 芳明 永井 和行 星野 太一 渡邊真紀子	研究連携室	
5	国際交流推進室	戸北 凱惟	原 瑞穂 黎 子椰 下里 俊行 北條 礼子 辻野けんま Brown, Ivan Bernard 梅野 正信 五十嵐透子 細江 容子 大前 敦巳 松田 慎也 洞谷亜里左 田島 弘司	研究連携室	

	名 称	室長等氏名	室員等氏名	事務担当	備 考
			生澤 繁樹 押木 秀樹 野地 美幸 阿部亮太郎 松尾 大介 榊原 潔 川村 知行 下川 洋司 永井 和行 佐藤 裕子 恩田 義孝		
6	GP支援室	佐藤 芳徳	石野 正彦 小林 辰至 大森 康正 後藤 公夫	教育支援課	
7	研究推進支援室	西村 俊夫	川崎 直哉 北條 礼子 久保田善彦 南部 昌敏 林 泰成 安藤 知子	研究連携室	
8	総合学生支援室	加藤 泰樹	佐藤 芳徳 木村 吉彦 廣瀬 裕一 林 泰成 上野 光博 下川 洋司 亀井 宣幸 高島 純一 中島 忍	学生支援課	

○人事異動

発令年月日	発令事項等	異 動 事 項	氏 名	現 ・ 旧 職
	役 員			
H24. 3. 31	任期満了		渡 部 良 和	理事
	任期満了		長谷川 彰	監事
	任期満了		大 原 啓 資	監事
H24. 4. 1	任 命	理事	渡 部 良 和	理事
	任 命	監事	森 部 英 生	高崎健康福祉大学教授
	任 命	監事	森 山 昭 彦	森山経理事務所長
	部局長等			
H24. 4. 1	任 命	経営協議会委員	渡 部 良 和	理事
	任 命	経営協議会委員	村 山 秀 幸	上越市長
	任 命	経営協議会委員	小和田 亮	トヨフジ海運株式会社特別顧問
	任 命	経営協議会委員	佐々木 正 峰	公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事長
	任 命	経営協議会委員	竹 田 幸 雄	新潟県中学校長会会長
	任 命	経営協議会委員	蓮 見 音 彦	元東京学芸大学長
	任 命	経営協議会委員	渡 邊 隆	新潟県立看護大学長
	任 命	大学院学校教育研究科学系長	直 原 幹	教授（芸術・体育教育学系）
	任 命	教育研究評議会評議員	直 原 幹	教授（芸術・体育教育学系）
H24. 4. 20	命	学校教育実践研究センター長事務代理	戸 北 凱 惟	理事
	大学教員			
H24. 3. 31	定年退職		有 澤 俊太郎	教授（人文・社会教育学系）
	定年退職		赤 羽 孝 之	教授（人文・社会教育学系）
	退 職	東海学園大学スポーツ健康科学部教授	伊 藤 政 展	教授（芸術・体育教育学系）
	退 職	大東文化大学文学部准教授	佐久間 亜 紀	准教授（学校教育学系）
	退 職	白百合女子大学文学部准教授	中 里 理 子	准教授（人文・社会教育学系）
	退 職		清 水 富 弘	准教授（芸術・体育教育学系）
H24. 4. 1	昇 任	教授（人文・社会教育学系）	志 村 喬	准教授（人文・社会教育学系）
	昇 任	教授（芸術・体育教育学系）	時 得 紀 子	准教授（芸術・体育教育学系）
	採 用	准教授（人文・社会教育学系）	矢 部 直 人	首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース助教

発令年月日	発令事項等	異 動 事 項	氏 名	現 ・ 旧 職
H24. 4. 11	採 用	准教授（自然・生活教育学系）	林 田 秀 一	大阪大学インターナショナルカレッジ兼理学研究科数 学専攻准教授
	採 用	講師（芸術・体育教育学系）	池 川 茂 樹	信州大学大学院医学系研究科研究員
	採 用	特任教授（人文・社会教育学系）	有 澤 俊太郎	教授（人文・社会教育学系）
	任用更新	特任准教授（学校教育実践研究センター）	中 野 博 幸	特任准教授（学校教育実践研究センター）
	任用更新	特任准教授（学校教育実践研究センター）	渡 辺 径 子	特任准教授（学校教育実践研究センター）
	任用更新	特任准教授（学校教育実践研究センター）	清 水 雅 之	特任准教授（学校教育実践研究センター）
	任用更新	特任講師（人文・社会教育学系）	Brown, Ivan Bernard	特任講師（人文・社会教育学系）
	兼 務	教授「教科・領域教育専攻生活・健康系コース」	加 藤 泰 樹	副学長
	兼 務	教授「教科・領域教育専攻生活・健康系コース」	川 崎 直 哉	副学長
	兼 務	教授「教科・領域教育専攻社会系コース」	佐 藤 芳 徳	副学長
H24. 4. 11	任命解除	教育研究評議会評議員	小 林 辰 至	教授（自然・生活教育学系）
附属教員				
H24. 3. 31	退 職	上越市立北諏訪小学校長	國 元 慶 子	附属幼稚園副園長
	退 職	上越市立中郷小学校教諭	古 川 勝 哉	附属小学校指導教諭
	退 職	燕市立小中川小学校教諭	藤 城 真 二	附属小学校教諭
	退 職	新潟市立亀田西小学校教諭	橋 本 忍	附属小学校教諭
	退 職	柏崎市立北条小学校教諭	大 下 さやか	附属小学校教諭
	退 職	上越市立城北中学校教諭	保 坂 修	附属中学校指導教諭
	退 職	上越市立雄志中学校教諭	遠 藤 好 子	附属中学校教諭
	退 職	柏崎市立第一中学校教諭	千 原 健 志	附属中学校教諭
	退 職	上越市立城東中学校教諭	大 野 洋 子	附属中学校教諭
	H24. 4. 1	採 用	附属幼稚園副園長	長谷川 敬 子
採 用		附属幼稚園教諭	梅 川 智 子	上越市立宝田小学校教諭
配 置 換		附属小学校指導教諭	関 谷 俊 彦	附属小学校教諭
採 用		附属小学校教諭	茂 木 淳 子	上越市立大手町小学校教諭
採 用		附属小学校教諭	朝 井 宜 人	上越市立春日小学校教諭
採 用		附属小学校教諭	川 村 孝 樹	新潟市立山潟小学校教諭
採 用		附属小学校教諭	金 子 謙太郎	上越市立国府小学校教諭
配 置 換		附属中学校指導教諭	清 水 陽一郎	附属中学校教諭
採 用		附属中学校教諭	荻 谷 公 子	上越市立城東中学校教諭
採 用		附属中学校教諭	中 野 博 史	上越市立春日中学校教諭
H24. 4. 1	採 用	附属中学校教諭	植 木 厚 夫	柏崎市立第一中学校教諭
	採 用	附属中学校教諭	内 山 未央子	上越市立雄志中学校教諭

発令年月日	発令事項等	異 動 事 項	氏 名	現 ・ 旧 職
	事務系職員			
H24. 3. 31	定年退職		関 宗 興	総務部総務課長
	退 職	長野工業高等専門学校学生課長	石 田 芳 邦	総務部広報室長
	退 職	筑波大学数理物質エリア支援室長	鉄 本 清 隆	総務部財務課長
	退 職	新潟大学施設管理部施設保全課長	高 野 晃 宏	総務部施設マネジメント課副課長
	退 職	福井工業高等専門学校総務課長	米 内 治	総務部財務課財務チーム主査（主に財務・監査担当）
	退 職		高 橋 輝 昭	学務部研究連携室国際交流チーム主査 （主に国際交流担当）
	退 職	お茶の水女子大学総務チーム	岡 本 世 紀	総務部企画室企画・評価チーム
	退 職	新潟大学研究支援部産学連携課	中 川 裕 介	学務部研究連携室研究連携チーム
	退 職	（期間満了）	池 田 健 助	学務部学生支援課学生支援チーム
H24. 4. 1	兼 務	事務局長	渡 部 良 和	理事
	命	総務部長事務取扱	渡 部 良 和	事務局長
	採 用	総務部総務課長	霜 越 隆 晴	富山大学財務部財務企画グループ長
	兼 務	総務部広報室長	後 藤 公 夫	総務部企画室長
	採 用	総務部財務課長	加 藤 善 一	文部科学省高等教育局私学部参事官学校法人経営指導 室経営指導第一係長
	担 当 命	総務部総務課副課長（総務担当）	佐 藤 誠 一	総務部総務課副課長
	兼 務	総務部総務課総務チーム主査（主に総務担当）	佐 藤 誠 一	総務部総務課副課長（総務担当）
	昇 任	総務部総務課副課長（人事・労務担当）	中 村 真 吾	総務部総務課人事・労務チーム主査（主に人事担当）
	兼 務	総務部総務課人事・労務チーム主査（主に人事担当）	中 村 真 吾	総務部総務課副課長（人事・労務担当）
	復 職		畔 上 雅 子	総務部総務課人事・労務チーム主任
	配 置 換	総務部総務課総務チーム主任	畔 上 雅 子	総務部総務課人事・労務チーム主任
	任期更新	総務部総務課総務チーム	江 口 清	総務部総務課総務チーム
	復 職		後 藤 涉	総務部総務課人事・労務チーム主任
	昇 任	総務部企画室副室長	水 野 栄 二	総務部企画室企画・評価チーム主査（主に評価担当）
	兼 務	総務部企画室企画・評価チーム主査（主に評価担当）	水 野 栄 二	総務部企画室副室長
	採 用	総務部企画室企画・評価チーム	毛 見 悠 人	
	採 用	総務部広報室広報チーム	佐 野 雄 一	
	復 帰	総務部附属学校事務室附属学校チーム	赤 井 一 繁	国立妙高青少年自然の家管理係
	配 置 換	総務部財務課副課長	岡 崎 明 弘	学務部教育支援課副課長（学校連携担当）
	兼 務	総務部財務課財務チーム主査（主に財務・監査担当）	岡 崎 明 弘	総務部財務課副課長
	配 置 換	総務部財務課経理・契約チーム主査（主に経理旅費担当）	飯 塚 章 次 郎	学務部教育支援課学校連携チーム主査 （主にGP支援担当）
	昇 任	学務部教育支援課副課長（学校連携担当）	渡 邊 茂 康	総務部総務課総務チーム主査（主に総務担当）

発令年月日	発令事項等	異 動 事 項	氏 名	現 ・ 旧 職
	配 置 換	学務部教育支援課教務支援チーム主査 (主に教務推進担当)	伊 藤 孝 之	学務部就職支援室就職支援チーム主査 (主に就職支援担当)
	採 用	学務部教育支援課教務支援チーム	小 林 大 亮	
	配 置 換	学務部教育支援課学校連携チーム主査 (主にG P支援担当)	池 田 謙 哉	学務部教育支援課教務支援チーム主査 (主に教務推進担当)
	配 置 換	学務部教育支援課学校連携チーム	黒 川 将 一	学務部教育支援課教務支援チーム
	配 置 換	学務部研究連携室副室長	瀧 本 一 幸	学務部研究連携室室長補佐
	採 用	学務部研究連携室研究連携チーム	千 島 和 香 奈	群馬大学昭和地区事務部経営企画課経営分析係
	昇 任	学務部研究連携室国際交流チーム主査 (主に国際交流担当)	村 椿 和 之	学務部教育支援課学校連携チーム主任
	採 用	学務部学生支援課学生支援チーム	山 田 佳 寛	
	任期更新	学務部学生支援課学生支援チーム	船 越 幸 子	学務部学生支援課学生支援チーム
	配 置 換	学務部就職支援室就職支援チーム主査 (主に就職支援担当)	秋 山 由 美 子	総務部財務課経理・契約チーム主査 (主に経理旅費担当)
	配 置 換	学務部学術情報課学術情報チーム	竹 内 若 奈	総務部附属学校事務室附属学校チーム
	兼 務	監査室室長	霜 越 隆 晴	総務部総務課長
	兼 務	監査室室員	岡 崎 明 弘	総務部財務課副課長
	非常勤職員 (サイエンス パフォーマンス アドバイザー)			
H24. 4. 16	採 用	学務部教育支援課学校連携チーム	池 田 定 充	
	採 用	学務部教育支援課学校連携チーム	中 澤 利 子	
	採 用	学務部教育支援課学校連携チーム	榎 嶋 誠 太 郎	
	採 用	学務部教育支援課学校連携チーム	山 岸 葉 子	
	(事務補佐員)			
H24. 3. 31	退 職	(期間満了)	川 野 美 香	総務部総務課総務チーム
	退 職	(期間満了)	田 中 大 介	総務部企画室企画・評価チーム
	退 職	(期間満了)	柳 澤 薫	総務部附属学校事務室附属学校チーム
	退 職	(期間満了)	大 島 絹 代	総務部附属学校事務室附属学校チーム
	退 職	(期間満了)	五十嵐 り か	総務部財務課経理・契約チーム
	退 職	(期間満了)	倉 島 智 豊	学務部入試課入試チーム
	退 職	(期間満了)	丸 山 恵	学務部学術情報課学術情報チーム
H24. 4. 1	採 用	総務部附属学校事務室附属学校チーム	加 藤 史 郎	
	採 用	総務部附属学校事務室附属学校チーム	丸 山 恵	
	採 用	総務部財務課経理・契約チーム	池 田 由 美 恵	
	採 用	学務部研究連携室研究連携チーム	水 島 可 奈 絵	
	採 用	学務部入試課入試チーム	倉 繁 友 紀 子	

教育研究評議会に置かれる委員会

大学改革委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
戸北 凱惟	理事	---		委員長
渡部 良和	理事	---		
加藤 泰樹	副学長	---		
川崎 直哉	副学長	---		
佐藤 芳徳	副学長	---		
下西善三郎	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
川村 知行	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
加藤 雅啓	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
梅野 正信	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
我妻 敏博	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
山本 友和	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
中川 仁	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
直原 幹	教授	---	24. 4. 1～25. 3. 31	
林 泰成	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
西村 俊夫	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
廣瀬 裕一	教授	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
下川 洋司	学務部長	---		

以上17名

教育研究評議会に置かれる委員会

大学教員人材評価委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
戸北 凱惟	理事	---		委員長
川崎 直哉	副学長	---		
梅野 正信	学校教育学系長	---		
我妻 敏博	臨床・健康教育学系長	---		
山本 友和	人文・社会教育学系長	---		
中川 仁	自然・生活教育学系長	---		
直原 幹	芸術・体育教育学系長	---		
林 泰成	学校教育専攻長	---		
西村 俊夫	教科・領域教育専攻長	---		
廣瀬 裕一	教育実践高度化専攻長	---		
石野 正彦	学長指名	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	

以上11名

教育研究評議会に置かれる委員会

学術研究委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
下西善三郎	附属図書館長	---		
川村 知行	学校教育実践研究センター長	---		
南部 昌敏	情報メディア教育支援センター長	---		
梅野 正信	学校教育学系長	---		
我妻 敏博	臨床・健康教育学系長	---		
山本 友和	人文・社会教育学系長	---		
中川 仁	自然・生活教育学系長	---		
直原 幹	芸術・体育教育学系長	---		
小林 恵	学校臨床研究コース長	---		
内田 一成	臨床心理学コース長	---		
丸山 良平	幼児教育コース長	---		
土谷 良巳	特別支援教育コース長	---		
野村眞木夫	言語系コース長	---		
松田 慎也	社会系コース長	---		
中村 雅彦	自然系コース長	---		
平野 俊介	芸術系コース長	---		
立屋敷かおる	生活・健康系コース長	---		
西川 純	教育実践リーダーコース長 学校運営リーダーコース長	---		
下川 洋司	学務部長	---		

以上20名

教育研究評議会に置かれる委員会

カリキュラム企画運営会議

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
佐藤 芳徳	副学長	---		議長
中山勘次郎	教務委員会委員	教授	24.4.1～26.3.31	
光永伸一郎	教育実習委員会委員	教授	24.4.1～26.3.31	
土田 了輔	ファカルティ・ディベロップメント委員会委員	准教授	23.4.1～25.3.31	
後藤 公夫	総務部企画室長	---		
亀井 宣幸	学務部教育支援課長	---		
梅野 正信	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
林 泰成	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
河合 康	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
野村眞木夫	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
志村 喬	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
小林 辰至	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
西村 俊夫	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
東原 貴志	学長指名	准教授	24.4.1～26.3.31	
立屋敷かおる	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
松本 修	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
石野 正彦	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	

以上17名

法人に置かれる委員会

セクシュアル・ハラスメント等人権侵害対策委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
戸北 凱惟	理事	---		委員長
梅野 正信	学校教育学系長	---		
我妻 敏博	臨床・健康教育学系長	---		
山本 友和	人文・社会教育学系長	---		
中川 仁	自然・生活教育学系長	---		
直原 幹	芸術・体育教育学系長	---		
上野 光博	保健管理センター所長	---		
阿部 靖子	附属幼稚園長	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
渡部 良和	総務部長事務取扱	---		
下川 洋司	学務部長	---		

以上10名

法人に置かれる委員会

大学評価委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
川村 知行	学校教育実践研究センター長	---		
松井千鶴子	学校教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
加藤 哲文	臨床・健康教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
野村眞木夫	人文・社会教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
細江 容子	自然・生活教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
上野 正人	芸術・体育教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
松本 健義	学校教育専攻	教授	24.4.1～26.3.31	
松本 健吾	教科・領域教育専攻	教授	24.4.1～26.3.31	
岩崎 浩	教育実践高度化専攻	教授	24.4.1～26.3.31	
阿部 靖子	附属幼稚園長	---	23.4.1～25.3.31	
渡部 良和	事務局長	---		
下川 洋司	学務部長	---		
西村 俊夫	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	

以上14名

法人に置かれる委員会

情報・広報委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
戸北 凱惟	理事	---		委員長
内藤 美加	学校教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
増井 晃	臨床・健康教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
前川 利広	人文・社会教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
光永伸一郎	自然・生活教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
安部 泰	芸術・体育教育学系	講師	24.4.1～26.3.31	
石野 正彦	学校教育実践研究センター	教授	24.4.1～26.3.31	
大森 康正	情報メディア教育支援センター	准教授	24.4.1～26.3.31	
長谷川敬子	附属幼稚園副園長	---	24.4.1～25.3.31	
渡部 良和	総務部長事務取扱	---		
下川 洋司	学務部長	---		

以上11名

法人に置かれる委員会

施設安全・環境委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
梅野 正信	学校教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
堀 健志	学校教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
佐藤 淳一	臨床・健康教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
藤井 和子	臨床・健康教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
押木 秀樹	人文・社会教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
矢部 直人	人文・社会教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
東原 貴志	自然・生活教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
宮川 健	自然・生活教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
阿部亮太郎	芸術・体育教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
池川 茂樹	芸術・体育教育学系	講師	24.4.1～26.3.31	
阿部 靖子	附属幼稚園長	---	23.4.1～25.3.31	
渡部 良和	総務部長事務取扱	---		
下川 洋司	学務部長	---		

以上14名

法人に置かれる委員会

男女共同参画推進委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
戸北 凱惟	理事	---		委員長
梅野 正信	学校教育学系長	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
中川 仁	自然・生活教育学系長	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
西村 俊夫	教科・領域教育専攻長	---	23. 4. 1～25. 3. 31	
林 泰成	教授	---	24. 4. 1～26. 3. 31	
内藤 美加	教授	---	24. 4. 1～26. 3. 31	
長谷川敬子	附属幼稚園副園長	---	24. 4. 1～26. 3. 31	
森 一夫	附属中学校副校長	---	24. 4. 1～26. 3. 31	
大津 輝幸	事務系職員	---	24. 4. 1～26. 3. 31	
秋山由美子	事務系職員	---	24. 4. 1～26. 3. 31	
霜越 隆晴	総務課長	---		
立屋敷かおる	学長指名	教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
小島 伸之	学長指名	准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
瀧本 理恵	学長指名	事務系職員	24. 4. 1～26. 3. 31	

以上14名

法人に置かれる委員会

研究倫理審査委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
北條 礼子	人文・社会科学分野	教授	24.4.1～26.3.31	
梅野 正信	人文・社会科学分野	教授	24.4.1～26.3.31	
光永伸一郎	自然科学分野	教授	24.4.1～26.3.31	
立屋敷かおる	自然科学分野	教授	24.4.1～26.3.31	
上野 光博	保健管理センター	教授	24.4.1～26.3.31	
高橋 幸知	学外学識経験者	---	24.4.1～26.3.31	
増井 晃	学長指名	教授	24.4.1～26.3.31	

以上8名

法人に置かれる委員会

研究活動の不正行為対策委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
(川崎 直哉)	学術研究委員会委員長	---		
越 良子	学校教育学系	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
我妻 敏博	臨床・健康教育学系	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
志村 喬	人文・社会教育学系	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
松本 健吾	自然・生活教育学系	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
西村 俊夫	芸術・体育教育学系	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
高橋 幸知	学外有識者	---	24. 4. 1～26. 3. 31	

以上7名

教授会に置かれる委員会

配分予算検討委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
川村 知行	学校教育実践研究センター長	---		
小林 恵	学校臨床研究コース長	---		
内田 一成	臨床心理学コース長	---		
丸山 良平	幼児教育コース長	---		
土谷 良巳	特別支援教育コース長	---		
野村眞木夫	言語系コース長	---		
松田 慎也	社会系コース長	---		
中村 雅彦	自然系コース長	---		
平野 俊介	芸術系コース長	---		
立屋敷かおる	生活・健康系コース長	---		
西川 純	教育実践リーダーコース長 学校運営リーダーコース長	---		
西村 俊夫	連合研究科副研究科長	---		
加藤 善一	財務課長	---		
内藤 美加	学長指名	教授	23.4.1~25.3.31	

以上15名

教授会に置かれる委員会

教務委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
佐藤 芳徳	副学長	---		委員長
中山勘次郎	学校教育専攻 学校臨床研究コース	教授	24.4.1～26.3.31	
古閑 晶子	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
山本隆一郎	学校教育専攻 臨床心理学コース	助教	23.4.1～25.3.31	
香曾我部 琢	学校教育専攻 幼児教育コース	講師	23.4.1～25.3.31	
葉石 光一	学校教育専攻 特別支援教育コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
北條 礼子	教科・領域教育専攻 言語系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
高本 條治	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
茨木 智志	教科・領域教育専攻 社会系コース	准教授	24.4.1～25.3.31	
天野 和孝	教科・領域教育専攻 自然系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
斎藤 敏夫	教科・領域教育専攻 自然系コース	准教授	24.4.1～25.3.31	
高石 次郎	教科・領域教育専攻 芸術系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
平野 俊介	教科・領域教育専攻 芸術系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
増井 晃	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
細江 容子	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	24.4.1～25.3.31	
大森 康正	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
周東 和好	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
松沢 要一	教育実践高度化専攻	教授	24.4.1～26.3.31	
石野 正彦	学校教育実践研究センター	教授	24.4.1～26.3.31	
下川 洋司	学務部長	---		
亀井 宣幸	教育支援課長	---		

以上21名

教授会に置かれる委員会

教育実習委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
釜田 聡	学校教育専攻 学校臨床研究コース	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
五十嵐透子	学校教育専攻 臨床心理学コース	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
鈴木 情一	学校教育専攻 幼児教育コース	教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
齋藤 一雄	学校教育専攻 特別支援教育コース	教授	24. 4. 1～25. 3. 31	
石濱 博之	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
吉田 昌幸	教科・領域教育専攻 社会系コース	講師	23. 4. 1～25. 3. 31	
小林 辰至	教科・領域教育専攻 自然系コース	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
五十嵐史帆	教科・領域教育専攻 芸術系コース	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
光永伸一郎	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
久保田善彦	教育実践高度化専攻	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
石野 正彦	学校教育実践研究センター	教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
渡辺 径子	学校教育実践研究センター	特任准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
中野 博幸	学校教育実践研究センター	特任准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
中野 英康	学校教育実践研究センター	特任准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
亀山 浩	学校教育実践研究センター	特任准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
長谷川敬子	附属幼稚園副園長	---		
神村 大輔	附属小学校副校長	---		
森 一夫	附属中学校副校長	---		
下川 洋司	学務部長	---		
亀井 宣幸	教育支援課長	---		
林 泰成	学長指名	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	委員長
小林 優子	学長指名	助教	23. 4. 1～25. 3. 31	

以上22名

教授会に置かれる委員会

学生委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
井上 久祥	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
奥村 太一	学校教育専攻 学校臨床研究コース	講師	23.4.1～25.3.31	
高橋 靖子	学校教育専攻 臨床心理学コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
丸山 良平	学校教育専攻 幼児教育コース	教授	23.4.1～25.3.31	
八島 猛	学校教育専攻 特別支援教育コース	講師	24.4.1～26.3.31	
小埜 裕二	教科・領域教育専攻 言語系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
大場 浩正	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
浅倉 有子	教科・領域教育専攻 社会系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
濤崎 智佳	教科・領域教育専攻 自然系コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
林田 秀一	教科・領域教育専攻 自然系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
伊藤 将和	教科・領域教育専攻 芸術系コース	講師	23.4.1～25.3.31	
長谷川正規	教科・領域教育専攻 芸術系コース	講師	24.4.1～26.3.31	
市川 真澄	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
立屋敷かおる	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
東原 貴志	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
佐藤ゆかり	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	講師	24.4.1～26.3.31	
木村 吉彦	教育実践高度化専攻	教授	24.4.1～26.3.31	委員長
上野 光博	保健管理センター所長	---		
下川 洋司	学務部長	---		
高島 純一	学生支援課長	---		
白木みどり	学長指名	准教授	23.4.1～25.3.31	

以上21名

教授会に置かれる委員会

就職委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
石川 真	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
大前 敦巳	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
井沢功一郎	学校教育専攻 臨床心理学コース	講師	23. 4. 1～25. 3. 31	
杉浦 英樹	学校教育専攻 幼児教育コース	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
有澤俊太郎	教科・領域教育専攻 言語系コース	特任教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
石濱 博之	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
山縣耕太郎	教科・領域教育専攻 社会系コース	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
中村 雅彦	教科・領域教育専攻 自然系コース	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
高橋 等	教科・領域教育専攻 自然系コース	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
玉村 恭	教科・領域教育専攻 芸術系コース	講師	24. 4. 1～26. 3. 31	
阿部 靖子	教科・領域教育専攻 芸術系コース	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
立屋敷かおる	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
大森 康正	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
廣瀬 裕一	教育実践高度化専攻	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	委員長
下川 洋司	学務部長	---		
中島 忍	就職支援室長	---		

以上16名

教授会に置かれる委員会

入学試験委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
加藤 泰樹	副学長	---		委員長
井本 佳宏	学校教育専攻 学校臨床研究コース	講師	24.4.1～26.3.31	
田島 弘司	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
佐藤 淳一	学校教育専攻 臨床心理学コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
杉浦 英樹	学校教育専攻 幼児教育コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
河合 康	学校教育専攻 特別支援教育コース	教授	24.4.1～26.3.31	
平野 絹枝	教科・領域教育専攻 言語系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
迎 勝彦	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	24.4.1～25.3.31	
下里 俊行	教科・領域教育専攻 社会系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
宮川 健	教科・領域教育専攻 自然系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
稲田 結美	教科・領域教育専攻 自然系コース	講師	24.4.1～26.3.31	
五十嵐史帆	教科・領域教育専攻 芸術系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
時得 紀子	教科・領域教育専攻 芸術系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
黎 子椰	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	23.4.1～25.3.31	
得丸 定子	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
大橋奈希左	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	24.4.1～25.3.31	
角田智恵美	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	講師	23.4.1～25.3.31	
瀬戸 健	教育実践高度化専攻	教授	24.4.1～26.3.31	
佐藤 芳徳	教務委員会委員長	---		
戸北 凱惟	国際交流推進室長	---		
下川 洋司	学務部長	---		
江田 進	入試課長	---		
南部 昌敏	学長指名	教授	23.4.1～25.3.31	
中山勘次郎	学長指名	教授	24.4.1～26.3.31	

以上24名

教授会に置かれる委員会

ファカルティ・ディベロップメント委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
佐藤 芳徳	副学長	---		委員長
角谷 詩織	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
加藤 哲文	学校教育専攻 臨床心理学コース	教授	24.4.1～26.3.31	
鈴木 情一	学校教育専攻 幼児教育コース	教授	23.4.1～25.3.31	
村中 智彦	学校教育専攻 特別支援教育コース	講師	24.4.1～26.3.31	
野地 美幸	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
畔上 直樹	教科・領域教育専攻 社会系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
斎藤 敏夫	教科・領域教育専攻 自然系コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
松尾 大介	教科・領域教育専攻 芸術系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
土田 了輔	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	23.4.1～25.3.31	
加藤 哲則	教育実践高度化専攻 教育実践リーダーコース	准教授	24.4.1～26.3.31	
早川 裕隆	教育実践高度化専攻 学校運営リーダーコース	准教授	23.4.1～25.3.31	
下川 洋司	学務部長	---		

以上13名

大学に置かれる委員会

教員免許状更新講習実施委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
川崎 直哉	副学長	---		委員長
城間 祥子	学校教育専攻 学校臨床研究コース	講師	24.4.1～26.3.31	
安藤 知子	学校教育専攻 学校臨床研究コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
宮下 敏恵	学校教育専攻 臨床心理学コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
香曾我部 琢	学校教育専攻 幼児教育コース	講師	24.4.1～26.3.31	
村中 智彦	学校教育専攻 特別支援教育コース	講師	24.4.1～26.3.31	
加藤 雅啓	教科・領域教育専攻 言語系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
渡部洋一郎	教科・領域教育専攻 言語系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
小島 伸之	教科・領域教育専攻 社会系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
松本 健吾	教科・領域教育専攻 自然系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
谷 友和	教科・領域教育専攻 自然系コース	講師	24.4.1～26.3.31	
洞谷亜里佐	教科・領域教育専攻 芸術系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
尾崎 祐司	教科・領域教育専攻 芸術系コース	講師	24.4.1～26.3.31	
山崎 貞登	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
榊原 潔	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
吉澤 千夏	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	准教授	24.4.1～26.3.31	
上野 光博	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース	教授	24.4.1～26.3.31	
赤坂 真二	教育実践高度化専攻	准教授	24.4.1～26.3.31	
下川 洋司	学務部長	---		
亀井 宣幸	教育支援課長	---		

以上20名

附属施設等に置かれる委員会

附属図書館運営委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
下西善三郎	附属図書館長	---		委員長
林 泰成	学校教育専攻長	---		
西村 俊夫	教科・領域教育専攻長	---		
廣瀬 裕一	教育実践高度化専攻長	---		
貴村 好隆	学術情報課長	---		

以上5名

附属施設等に置かれる委員会

学校教育実践研究センター運営委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
川村 知行	学校教育実践研究センター長	---		委員長
釜田 聡	学校教育実践研究センター	教授	24.4.1～26.3.31	
石野 正彦	学校教育実践研究センター	教授	23.4.1～25.3.31	
亀山 浩	学校教育実践研究センター	特任准教授	24.4.1～26.3.31	
五十嵐素子	学校教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
藤井 和子	臨床・健康教育学系	准教授	24.4.1～26.3.31	
下西善三郎	人文・社会教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
得丸 定子	自然・生活教育学系	教授	24.4.1～26.3.31	
池川 茂樹	芸術・体育教育学系	講師	24.4.1～26.3.31	
森 一夫	附属中学校副校長	---	23.4.1～25.3.31	
下川 洋司	学務部長	---		

以上11名

附属施設等に置かれる委員会

保健管理センター運営委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
上野 光博	保健管理センター所長	---		委員長
増井 晃	保健管理センター	教授		
木村 吉彦	学生委員会委員長	---		
小林 優子	学校教育専攻	助教	23. 4. 1～25. 3. 31	
大橋奈希左	教科・領域教育専攻	准教授	24. 4. 1～25. 3. 31	
木村 吉彦	教育実践高度化専攻	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
渡部 良和	総務部長事務取扱	---		
下川 洋司	学務部長	---		
五十嵐透子	学長指名	教授	23. 4. 1～25. 3. 31	

以上9名

附属施設等に置かれる委員会

情報メディア教育支援センター運営委員会

氏名	委員会組織における職名又は組織等	職名	任期	備考
南部 昌敏	情報メディア教育支援センター長	---		委員長
大森 康正	情報メディア教育支援センター	准教授		
井上 久祥	情報メディア教育支援センター	准教授		
石川 真	情報メディア教育支援センター	准教授		
高野 浩志	情報メディア教育支援センター	講師		
水落 芳明	学校教育学系	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
高橋 靖子	臨床・健康教育学系	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
高本 條治	人文・社会教育学系	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
長谷川敦司	自然・生活教育学系	准教授	23. 4. 1～25. 3. 31	
尾崎 祐司	芸術・体育教育学系	講師	23. 4. 1～25. 3. 31	

以上10名

附属施設等に置かれる委員会

心理教育相談室運営委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
加藤 哲文	心理教育相談室長	---		委員長
内田 一成	心理教育相談室相談員	教授		
五十嵐透子	心理教育相談室相談員	教授		
宮下 敏恵	心理教育相談室相談員	准教授		
佐藤 淳一	心理教育相談室相談員	准教授		
高橋 靖子	心理教育相談室相談員	准教授		
山本隆一郎	心理教育相談室相談員	助教		
上野 光博	保健管理センター所長	---		
大庭 重治	特別支援教育実践研究センター	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
下川 洋司	学務部長	---		

以上10名

附属施設等に置かれる委員会

特別支援教育実践研究センター運営委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
大庭 重治	特別支援教育実践研究センター長	---		委員長
我妻 敏博	特別支援教育実践研究センター	教授		
土谷 良巳	特別支援教育実践研究センター	教授		
齋藤 一雄	特別支援教育実践研究センター	教授		
河合 康	特別支援教育実践研究センター	教授		
藤井 和子	特別支援教育実践研究センター	准教授		
笠原 芳隆	特別支援教育実践研究センター	准教授		
葉石 光一	特別支援教育実践研究センター	准教授		
村中 智彦	特別支援教育実践研究センター	講師		
八島 猛	特別支援教育実践研究センター	講師		
小林 優子	特別支援教育実践研究センター	助教		
加藤 哲文	心理教育相談室	教授	24. 4. 1～26. 3. 31	
下川 洋司	学務部長	---		

以上13名

附属施設等に置かれる委員会

附属学校運営委員会

氏 名	委員会組織における職名又は組織等	職 名	任 期	備 考
佐藤 芳徳	副学長	---		委員長
林 泰成	学校教育専攻長	---		
西村 俊夫	教科・領域教育専攻長	---		
廣瀬 裕一	教育実践高度化専攻長	---		
阿部 靖子	附属幼稚園長	---		
加藤 雅啓	附属小学校長	---		
藤岡 達也	附属中学校長	---		
長谷川敬子	附属幼稚園副園長	---		
神村 大輔	附属小学校副校長	---		
森 一夫	附属中学校副校長	---		
渡部 良和	事務局長	---		

以上11名

運営の基本組織として置かれる委員会

連合大学院委員会

氏名	委員会組織における職名又は所属等	職名	備考	氏名	委員会組織における職名又は所属等	職名	備考
若井 彌一	学長	---	委員長	久保田善彦	先端課題実践開発連合講座	教授	
戸北 凱惟	副学長	---		鈴木 情一	先端課題実践開発連合講座	教授	
加藤 泰樹	副学長	---		西川 純	先端課題実践開発連合講座	教授	
川崎 直哉	副学長	---		林 泰成	先端課題実践開発連合講座	教授	
佐藤 芳徳	副学長	---		松本 修	先端課題実践開発連合講座	教授	
梅野 正信	学校教育方法連合講座	教授		丸山 良平	先端課題実践開発連合講座	教授	
越 良子	学校教育方法連合講座	教授		水落 芳明	先端課題実践開発連合講座	准教授	
内藤 美加	学校教育方法連合講座	教授		有澤俊太郎	言語系教育連合講座	特任教授	
中山勘次郎	学校教育方法連合講座	教授		小埜 裕二	言語系教育連合講座	教授	
南部 昌敏	学校教育方法連合講座	教授		加藤 雅啓	言語系教育連合講座	教授	
安藤 知子	学校教育方法連合講座	准教授		下西善三郎	言語系教育連合講座	教授	
五十嵐素子	学校教育方法連合講座	准教授		野村眞木夫	言語系教育連合講座	教授	
井上 久祥	学校教育方法連合講座	准教授		平野 絹枝	言語系教育連合講座	教授	
角谷 詩織	学校教育方法連合講座	准教授		北條 礼子	言語系教育連合講座	教授	
生澤 繁樹	学校教育方法連合講座	講師		前川 利広	言語系教育連合講座	教授	
我妻 敏博	学校教育臨床連合講座	教授		大場 浩正	言語系教育連合講座	准教授	
五十嵐透子	学校教育臨床連合講座	教授		押木 秀樹	言語系教育連合講座	准教授	
内田 一成	学校教育臨床連合講座	教授		浅倉 有子	社会系教育連合講座	教授	
大庭 重治	学校教育臨床連合講座	教授		志村 喬	社会系教育連合講座	教授	
加藤 哲文	学校教育臨床連合講座	教授		下里 俊行	社会系教育連合講座	教授	
齋藤 一雄	学校教育臨床連合講座	教授		山本 友和	社会系教育連合講座	教授	
河合 康	学校教育臨床連合講座	教授		茨木 智志	社会系教育連合講座	准教授	
葉石 光一	学校教育臨床連合講座	准教授		山縣耕太郎	社会系教育連合講座	准教授	
宮下 敏恵	学校教育臨床連合講座	准教授		天野 和孝	自然系教育連合講座	教授	
村中 智彦	学校教育臨床連合講座	講師		小林 辰至	自然系教育連合講座	教授	
木村 吉彦	先端課題実践開発連合講座	教授		高津戸 秀	自然系教育連合講座	教授	

氏名	委員会組織における職名又は所属等	職名	備考
中川 仁	自然系教育連合講座	教授	
中村 雅彦	自然系教育連合講座	教授	
藤岡 達也	自然系教育連合講座	教授	
松本 健吾	自然系教育連合講座	教授	
小川 茂	自然系教育連合講座	准教授	
濤崎 智佳	自然系教育連合講座	准教授	
長谷川敦司	自然系教育連合講座	准教授	
川村 知行	芸術系教育連合講座	教授	
後藤 丹	芸術系教育連合講座	教授	
高石 次郎	芸術系教育連合講座	教授	
時得 紀子	芸術系教育連合講座	教授	
西村 俊夫	芸術系教育連合講座	教授	
平野 俊介	芸術系教育連合講座	教授	
松本 健義	芸術系教育連合講座	教授	
松尾 大介	芸術系教育連合講座	准教授	
市川 真澄	生活・健康系教育連合講座	教授	
立屋敷かおる	生活・健康系教育連合講座	教授	
得丸 定子	生活・健康系教育連合講座	教授	
光永伸一郎	生活・健康系教育連合講座	教授	
山崎 貞登	生活・健康系教育連合講座	教授	
黎 子椰	生活・健康系教育連合講座	教授	

以上73名

一般通報事項

○役員会

■第69回役員会

期 日 平成24年3月23日（金）

議 題

- 1 平成24年度年度計画
- 2 役員報酬及び職員給与等の改正等
- 3 平成24年度学内予算
- 4 事務組織規則の一部改正
- 5 自己点検・評価規則の一部改正
- 6 会計関係規則の一部改正

○経営協議会

■第34回経営協議会

期 日 平成24年3月23日（金）

議 題

- 1 平成24年度年度計画（経営に関する部分）
- 2 役員報酬及び職員給与等の改定等
- 3 平成24年度学内予算
- 4 会計関係規則の一部改正
- 5 平成24年度に係る学内自己点検・評価実施計画
- 6 事務組織規則の一部改正

○教育研究評議会

■第121回教育研究評議会

期 日 平成24年3月14日（水）

議 題

- 1 教員人事
- 2 平成24年度年度計画（経営に関する部分を除く）
- 3 平成24年度に係る学内自己点検・評価実施計画
- 4 外部評価実施に伴う関係規則の改正等
- 5 学校教育実践研究センター規則の一部改正
- 6 教育研究評議会及び教授会に置かれる委員会委員の委嘱
- 7 平成24年度専修研究員の選考

- 8 受託研究の受入れ
- 9 平成24年度施設利用計画

■第122回教育研究評議会

期 日 平成24年4月18日（水）

議 題

- 1 特任教員の選考等の取扱い
- 2 受託研究の受入れ

○教授会

■第138回教授会

期 日 平成24年3月6日（火）

議 題

- 1 平成24年度学部一般入試（前期日程）合格者の判定
- 2 学籍異動
- 3 平成23年度学部卒業判定
- 4 平成23年度大学院修了判定

■第139回教授会

期 日 平成24年3月15日（木）

議 題

- 1 平成24年度大学院入試（後期募集）合格者の判定
- 2 平成24年度教育職員免許取得プログラム受講者の判定
- 3 学籍異動

■第140回教授会

期 日 平成24年3月21日（水）

議 題

- 1 平成24年度学部一般入試（後期日程）合格者の判定
- 2 平成24年度学部一般入試（後期日程）追加合格者の決定
- 3 平成24年度欠員補充第2次学生募集
- 4 平成27年度以降の大学入試センター試験の利用教科・科目
- 5 学籍異動

■第141回教授会

期 日 平成24年4月25日（水）

議 題

1 学籍異動

○平成23年度上越教育大学国際交流のつどい

日頃から本学留学生にご支援いただいている地域の方々と本学教職員等が意見交換を行い、本学の国際交流推進に役立てるとともに相互の親睦を深めることを目的として、平成24年3月6日（火）第1食堂において、上越教育大学国際交流のつどいを実施した。



上越市、上越市教育委員会、上越国際交流協会、近郊のロータリークラブ、ホームビジット家庭の方々からご出席いただき、本学の国際交流の現状及び留学生の現状と支援について説明した後、留学生の代表2名から1年間の体験発表後、自由交流を行い、地域の方々との親睦を深めた。

○退職者永年勤続表彰状授与式

平成24年3月31日付け本学退職者のうち勤続期間が30年以上であって、当該勤続期間のうち本法人在職期間が15年以上である者に対して、3月26日（月）大会議室において退職者永年勤続表彰状授与式を実施し、次の被表彰者に表彰状を授与するとともに、記念品を贈呈した。

有澤俊太郎 教授（人文・社会教育学系）

赤羽 孝之 教授（人文・社会教育学系）

伊藤 政展 教授（芸術・体育教育学系）

○叙位・叙勲

平成24年春の叙勲で、塚原 實名誉教授に対し、同氏の功績により瑞宝中綬章が下賜された。

また、平成24年2月22日に死去された上野 和年名誉教授に対し、同氏の生前の功績により、従四位に叙された。

○平成24年度新入生図書館利用ガイダンス

新入生に、図書館の施設・設備を案内するとともに自動貸出装置、OPAC(蔵書目録)、およびマルチメディアコーナー設置のパソコンの利用方法を説明した。

期 日 平成24年4月9日（月）～13日（金）の平日

各1回30分（11日のみ2回）

場 所 附属図書館

参加人数 合計 48人

○平成24年度文献の探し方ガイダンス

マルチメディアコーナーでOPAC, Webcat, CiNii , 機関リポジトリの使い方の実習を行ったほか, 学外機関への文献複写依頼, および図書の借受方法を説明した。

期 日 平成24年4月17日(火)～20日(金), 4月24日(火)～4月25日(水)

各日13:20～14:10, 15:00～15:50

場 所 附属図書館

参加人数 合計 45 人

○附属図書館利用案内全体会

新入生(主に学部1年生)を対象に図書館サービスの概要説明, 館内案内ツアーを行った。

期 日 平成24年4月23日(月) 16:20～17:20

場 所 講義棟301室, 附属図書館

参加人数 約80人

○公開講座・免許法認定公開講座

平成24年度に実施する公開講座等は次のとおりである。

(※を付した講座については、公開講座に併せて、免許法認定公開講座として実施するものである。)

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
はじめての短歌 ～実作短歌入門～	<p>短歌は、万葉集以来、日本人に最も親しまれてきた詩形ですが、いざ作るとなると「難しそう」と感じる人も多いと思います。</p> <p>でも、そんなことはありません。</p> <p>講座では、初回到歌作りの基本的な考え方をお話した後、2回目からは各自が作品を持ち寄り、相互に批評しあうことによって、歌作りの勘どころを学んでいきます。</p> <p>短歌を通じ自己表現の手法を学べば、他の文学作品を鑑賞する上でもきっと新しい視界が開かれることでしょう。</p>	松田 慎也 教授	5月11日(金) 5月18日(金) 5月25日(金) 6月1日(金) 6月8日(金) 6月15日(金) 6月22日(金) 6月29日(金) 7月6日(金) 7月13日(金) 全10回	19:00～20:30 (1時間30分) 計15時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 人文棟1階 101教室	一般市民 (入門) 10人 最小実施 人数2人
体操教室 I	<p>小学生を対象として、マット、とび箱、鉄棒、平均台、トランポリンなどの器械運動を中心に行う体操教室です。</p>	周東 和好 准教授	5月13日(日) 5月20日(日) 6月3日(日) 6月10日(日) 6月17日(日) 全5回	14:00～16:00 (2時間) 計10時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 小体育館2階 トレーニング室	小学生 20人 最小実施 人数1人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
チームで作成する”特別な教育的ニーズのある子”の指導・支援計画 ※	<p>障害のある子の教育的ニーズに対応する「特別支援教育」の理念や教育課程・指導法について概説し、ニーズのある子の実態把握、目標設定の方法、個別の指導計画作成の手続き等について細述します。</p> <p>その上で、受講生ご自身に、学校等で担当されてるお子さんを対象とした簡便な個別の指導計画を実際にチームで作成していただき、その授業（学習活動）への生かし方と評価の方法について考究します。</p>	<p>笠原 芳隆 准教授</p> <p>藤井 和子 准教授</p>	<p>5月26日（土） 6月9日（土） 6月16日（土）</p> <p>全3回</p>	<p>10:00～16:00 （5時間、昼食休憩1時間）</p> <p>計15時間</p>	<p>上越教育大学 （山屋敷キャンパス）</p> <p>特別支援教育実践研究センター2階研修室</p>	<p>現職教員 保育士 療養担当者ほか 関心のある方 20人</p> <p>最小実施人数3人</p>
「学校」を知って楽しく仕事をしよう～教師のための快適職場環境づくり講座～	<p>教育改革が続く中、日々変化を続ける学校現場では、多忙化や協働の不足など教師のやる気をそぐような状況が少なからず生じています。</p> <p>そこで、「学校の今」を見る目をもちながら、楽しく健康的に職務に取り組める組織づくりが重要な課題となっています。</p> <p>本講座では、若手から中堅層の教師が楽しく職務に従事できるようにするために、「学校の今」を読み解きながら、快適な職場環境を整えるための秘訣を5つの観点から考えます。</p>	<p>安藤 知子 准教授</p>	<p>6月16日（土） 6月23日（土）</p> <p>全2回</p>	<p>10:00～16:00 （5時間、昼食休憩1時間）</p> <p>計10時間</p>	<p>上越教育大学 （山屋敷キャンパス）</p> <p>人文棟2階201教室</p>	<p>現職教員 20人</p> <p>最小実施人数2人</p>

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
染付の盛鉢をつくる	<p>盛鉢を成形し白化粧を施します。</p> <p>素焼きの後に呉須と呼ばれる絵具で絵付けをし、釉薬を掛けて本焼きします。</p>	高石 次郎 教授	6月17日(日) 7月1日(日) 7月8日(日) 7月22日(日) 7月29日(日) 全5回	6月17日(日) 9:00~12:00 (3時間) 7月1日(日) 7月8日(日) 7月22日(日) 10:00~12:00 (2時間) 7月29日(日) 10:00~11:00 (1時間) 計10時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 美術棟1階 陶芸室	市民一般 (初級) 15人 最小実施 人数10人
重度・重複障害教育総論 ※	<p>重度・重複障害教育に関して総論的な理解を得ることを目的とします。</p> <p>まず様々な重度・重複障害の状態と行動に関して理解を深めます(心理・生理・病理的事項)。</p> <p>次に、重度・重複障害教育に関する学校教育の制度と実態(制度的事項)、教育課程と教育における困難及び課題について概観(指導内容に関する事項)します。</p> <p>さらに、具体的指導内容・方法について、実践事例を紹介しつつ詳説します。</p>	土谷 良巳 教授	7月30日(月) 7月31日(火) 8月1日(水) 全3回	10:00~16:00 (5時間、昼食休憩1時間) 計15時間	上越教育大学 東京サテライトオフィス (東京都港区芝3-3-6)	現職教員 20人 最小実施 人数10人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
少年少女スポーツ教室Ⅰ (山屋敷サッカークラブ低学年)	<p>小学校4年生以下の子どものためのサッカー教室です。</p> <p>サッカーのテクニックの練習や参加者同士で試合を行います。</p> <p>また、ドッジボール、バドミントン、野球、ホッケーなど様々な形式のスポーツも行います。</p> <p>これらの体験を通してスポーツの基礎となる「動きづくり」を行います。</p>	榊原 潔 准教授	8月5日(日) 8月7日(火) 8月9日(木) 8月11日(土) 8月24日(金) 8月27日(月) 8月29日(水)	9:00~11:00 (2時間) 計14時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 体育館	小学生 30人 最小実施 人数8人
木琴をつくろう	<p>木材には軽くて強い性質のほか、音をよく伝える性質があります。そのため、木材を利用したさまざまな楽器がつくられています。</p> <p>この講座では、木材の性質を学び、のこぎりで音板の長さを調節し、絵の具で音板をデザインし、世界に一つだけの木琴をつくります。</p>	東原 貴志 准教授	8月6日(月) 8月8日(水)	9:00~11:00 (2時間) 計4時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 第2講義棟 003共用講義 演習室	小学生 (3~6年生) 20人 最小実施 人数1人
「小学校外国語活動」進め方入門	<p>「だれでもできる」「たぬになる」「楽しい」小学校外国語活動の授業づくりをねらいとします。</p> <p>その内容は、理論編と実践編を組み合わせた内容です。</p> <p>具体的には、学習指導要領に基づく外国語活動のねらいや意義、カリキュラムデザイン、授業の枠組みの作り方、指導方法、ゲームの活動、歌の活動、教材・教具のあり方、授業展開事例、評価の考え方と方法、教室英語などを提供します。</p>	石濱 博之 准教授	8月8日(水) 8月9日(木)	10:00~16:00 (5時間、昼食休憩1時間) 計10時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 人文棟2階 208教室	市民一般 (初級) 現職教員 10人 最小実施 人数1人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
「楽しい」入門マジック教室 ～簡単なマジックをやってみよう～	<p>あなたもエンターティナーになってみませんか。マジックをとおして、教室やその他の場所を楽しい空間にしてみませんか。</p> <p>自分でマジックの教材を作りながら、簡単なマジックの極意を身につけましょう。</p> <p>具体的に、その内容は、マジックのねらい、自作のマジック教材作成、各々のマジックの手順、グループでマジック練習、自分のマジックショー（発表）などです。そして、簡単な5つくらいのマジックをできるようにします。</p> <p>マジックを初めてやってみたい方（入門者）のための講座です。</p> <p>マジックで「エイ、エイ、オー」</p>	石濱 博之 准教授	8月10日（金） 全1回	10:00～16:00 （5時間、昼食休憩1時間） 計5時間	上越教育大学（山屋敷キャンパス） 人文棟2階208教室	一般市民（入門） 現職教員（入門） 10人 最小実施人数1人
ゲームで学ぶ社会 ～協力・競争・交渉・経済・コミュニケーション～	<p>社会科等において、知識の伝達にとどまらない、社会に関するダイナミズムを伝えるツールとして、ゲームを利用する試みがなされています。</p> <p>本講座では、民主主義・外交・貿易市場・価格など、社会のダイナミズムを実感的に伝えることのできる、コミュニケーションゲームやボードゲーム、カードゲームを紹介・プレイし、授業づくりのヒントを考えていきます。</p> <p>また、クラスづくり・アイスブレイクに使えるゲームを紹介・プレイします。</p>	小島 伸之 准教授	8月11日（土） 全1回	10:00～17:00 （6時間、昼食休憩1時間） 計6時間	上越教育大学（山屋敷キャンパス） 人文棟2階205教室	現職教員12人 最小実施人数4人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
道徳授業とその周辺 ～人権教育・キャリア教育・児童相談所の活動との関連を考える～	<p>道徳教育は、道徳の時間を要しながらもさまざまな活動を通して実践されています。</p> <p>そこで、本講座では道徳授業とその周辺に位置づけられる教育の諸活動との関連を考えてみましょう。</p> <p>特に人権教育との関連、キャリア教育との関連、児童相談所の活動との関連を中心に、講義と演習を織り交ぜて、三人のスタッフが道徳教育について語ります。</p> <p>1日目の講座終了後に、ざっくばらんに意見交換のできる懇親の場を設定する予定です。</p>	林 泰成 教授 白木 みどり 准教授 早川 裕隆 准教授	8月17日(金) 8月18日(土) 全2回	8月17日(金) 12:30～17:30 (5時間) 8月18日(土) 9:00～17:00 (7時間、昼食休憩1時間) 計12時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 人文棟2階 208教室	現職教員 20人 最小実施 人数5人
世界のボードゲーム・カードゲーム ～ゲームで社会・異文化を体験しよう～	<p>日本でゲームといえば、まずテレビゲームが想起されますが、ヨーロッパ(特にドイツ)では、1990年頃からボードゲーム・カードゲームが発達し、家族や友人などがテーブルを囲んで直接コミュニケーションをとりながらゲームを楽しむ文化が定着してきています。</p> <p>日本でも、人生ゲームやモノポリー・ウノなどは知られていますが、ドイツのボードゲームやその文化はまだあまり知られていない状況にあります。</p> <p>本講座では、実際にいくつかのボードゲームをプレイして、楽しみながら異文化の世界を体験します。</p>	小島 伸之 准教授	8月25日(土) 全1回	10:00～17:00 (6時間、昼食休憩1) 計6時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 人文棟2階 205教室	中学生 高校生 市民一般 (入門) 16人 最小実施 人数4人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
折紙の数学	<p>日本人は誰でも子ども時代に鶴を折った経験を持っているように、折紙は日本の伝統文化の一つです。</p> <p>しかし、折紙を用いれば、定規とコンパスでは作図できないような任意の角の三等分や立法倍積の問題ができることは一般の人には知られていません。</p> <p>このようなことが可能であることについて、その数学的な理由を解説すると同時に、実際に正7角形や正13角形などを折紙で折ることを体験してもらいます。</p>	中川 仁 教授	8月29日(水) 9月5日(水) 9月12日(水) 9月19日(水) 9月26日(水) 全5回	19:00~21:00 計10時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 講義棟3階 302教室	高校生 市民一般 (中級) 10人 最小実施 人数3人
絹に絵を描こう	<p>絹は、日本画独特のぼかしの柔らかい表現と、美しい伸びやかな線を表すのに適した素材といえます。</p> <p>日本画の伝統的な技法を学びながら、絹絵を制作してみましよう。</p>	洞谷 亜里佐 准教授	9月1日(土) 9月2日(日) 全2回	9:30~15:30 (5時間、昼食休憩1時間) 計10時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 美術棟3階 日本画室	中学生 高校生 市民一般 (中級) 現職教員 15人 最小実施 人数3人
遺伝子DNAを探る	<p>「DNA」という言葉を耳にすることが多くなっていますか？われわれ人間を含め生物の形や性質を決めている遺伝子DNAについて、形や働き、親から子へ伝わる仕組み、現代社会における利用(DNA鑑定、PCR検査等)を簡単な実験や、身近な事例紹介によって平易に解説します。</p>	五百川 裕 准教授	10月9日(火) 10月16日(火) 10月23日(火) 10月30日(火) 11月6日(火) 11月13日(火) 全6回	18:00~20:00 計12時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 自然棟4階 植物分類系統 実験室	高校生 市民一般 (初級) 現職教員 5人 最小実施 人数3人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
体操教室Ⅱ	小学生を対象として、マット、とび箱、鉄棒、平均台、トランポリンなどの器械運動を中心に行う体操教室です。	周東 和好 准教授	10月14日(日) 10月21日(日) 11月4日(日) 11月11日(日) 11月25日(日) 全5回	14:00～16:00 計10時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 小体育館 2階トレーニング室	小学生 20人 最小実施 人数1人
美術の楽しさ再発見, いろんな素材で版表現!!	当講座では、コラグラフ、石膏キャスト、銅版画、デジタルプリント、木版画など、様々な素材と方法を使って版表現を楽しみます。 「美術って難しい」「絵は苦手」と思っている方も、楽しめる内容となっています。 講師は5名の教員が担当しますので、上越教育大学の芸術系(美術)コースの様子を見てみたいという中学生・高校生や、現職の先生のご参加もお待ちしております。	五十嵐 史帆 准教授 洞谷 亜里佐 准教授 松尾 大介 准教授 安部 泰 講師 伊藤 将和 講師	12月1日(土) 12月2日(日) 全2回	9:00～16:00 (6時間、昼食休憩1時間) 計12時間	上越教育大学 (山屋敷キャンパス) 美術棟2階 版画室	中学生 高校生 市民一般 (入門) 現職教員 15人 最小実施 人数3人
理科野外観察指導実習B 森の学校 ※	実習の場を森とし、森に生息する多種多様な生物の野外観察を通して、その生息環境や生物同士の関係を考え、森における野外観察のあり方、素材の提供、運営方法、指導方法、安全対策を現地で実際に学ぶことを目的とした講座です。	中村 雅彦 教授	9月5日(水) 9月6日(木) 2日間	9:00～17:00	志賀高原 (長野県下高井郡山ノ内町)	市民一般 (初級～中級) 現職教員 10人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
理科野外観察 指導実習C 川の学校 ※	<p>実習の場を川とし、川に生息する多種多様な生物の野外観察を通して、その生息環境や生物同士の関係を考え、川における野外観察のあり方、素材の提供、運営方法、指導方法、安全対策を現地で実際に学ぶことを目的とした講座です。</p>	中村 雅彦 教授	8月18日(土) 8月19日(日) 2日間	9:00～17:00	正善寺川、大瀬川 (新潟県上越市)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人
理科野外観察 指導実習D ミクロの世界 ※	<p>池や沼などでみられる浮遊生物(プランクトン)について、そのサンプリング方法や観察法について実習を通して学びます。</p> <p>また、走査電子顕微鏡、蛍光顕微鏡等を実際に操作しながら、プランクトンの生きた姿と微細形態の観察・撮影を行います。</p>	小川 茂 教授	8月8日(水) 8月9日(木) 2日間	9:00～17:00	上越教育大学 (山屋敷キャンパス)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人
理科野外観察 指導実習E 身近な植物 ※	<p>身近に生育する植物の種類、形態、生態についての観察指導のポイントを、校庭や路傍、畑地や空き地、雑木林や杉林を観察場所とした実習を通して学びます。</p> <p>名前を知らなくとも植物の野外観察はできることを体験し、野外観察指導実践を阻むバリアーの低減をめざします。</p>	谷 友和 講師	8月25日(土) 8月26日(日) 2日間	9:00～17:00	上越教育大学 (山屋敷キャンパス)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
理科野外観察 指導実習F 化石を読む ※	初等中等教育では野外での地層観察や化石採集が求められています。 本実習では、地層観察方法や化石採集方法を実習し、採集された化石などから地質時代や古環境を検討します。	天野 和孝 教授	8月30日(木) 8月31日(金) 2日間	9:00～17:00	愛の風～滝寺、金谷山、平山～中ノ俣、谷浜～大淵、名立区大菅 (新潟県上越市)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人
理科野外観察 指導実習G 火山とマグマ ※	大地の変動の観点から変成作用による地殻変動や火成活動の野外観察をおこないます。 いろいろな岩石を観察することにより野外観察を指導するための基礎を修得し、また火山災害についての安全対策を現地で実際に学びます。	大場 孝信 准教授	8月27日(月) 8月28日(火) 2日間	9:00～17:00	妙高市、糸魚川市 (新潟県)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人
理科野外観察 指導実習H 大気を調べる ※	1泊2日の日程で気象観測実習を行います。 小・中学校のカリキュラムに出てくる、太陽の日周運動、気温と湿度の日変化、雲形・雲量、海風循環等の現象を対象とした独自の観測結果をインターネット上に公開される気象情報と比較しながら、現象の理解や説明方法等を習得させます。	中川 清隆 非常勤講師	6月2日(土) 8月3日(日) 2日間	9:00～17:00	上越教育大学 (山屋敷キャンパス)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人
理科野外観察 指導実習I 星の一日 ※	1泊2日の日程で暖候季の星の観測実習を行います。 小学校4年理科及び中学校理科第2分野の天文単元に出てくる、太陽、月、星座の日周運動及び星の観測の指導に適した季節、場所、方法等について、実際に観測しながら学びます。	濤崎 智佳 准教授	10月7日(日) 10月8日(月・祝) 2日間	9:00～17:00	星のふるさと館 (新潟県上越市清里区)	市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人

講座名	講座概要	講師	実施期間	開設時間	実施場所	定員
理科野外観察 指導実習J 自然の見方 ※	<p>身近な自然に見られる野草等の植物の生活史を、植物相互の関わり、昆虫との関わり、光・温度・水・土等の物理・化学的環境要因との関わり等の視点で総合的に理解するための観察能力を、講義と実習を通して修得します。</p> <p>さらに、比較や分類等を通してプロセス・スキルズについても実習を通して学びます。</p>	<p>中村 雅彦 教授</p> <p>谷 友和 講師</p>	<p>6月9日(土) 6月10日(日)</p> <p>2日間</p>	9:00~17:00	上越教育大学 (山屋敷キャンパス)	<p>市民一般 (初級・中級) 現職教員 10人</p>

○海外渡航

	職名	氏名	渡航目的国	用務	期間	備考
1	校長	加藤 雅啓	オーストラリア	ウェストシスター・スクールとの交流(訪問)に係る下見のため	平成24年3月3日～ 平成24年3月7日	外国出張
2	教頭	泉 豊	オーストラリア	ウェストシスター・スクールとの交流(訪問)に係る下見のため	平成24年3月3日～ 平成24年3月7日	外国出張
3	教諭	関谷 俊彦	オーストラリア	ウェストシスター・スクールとの交流(訪問)に係る下見のため	平成24年3月3日～ 平成24年3月7日	外国出張
4	教授	五十嵐 透子	アメリカ	海外教育(特別)研究Bの引率のため	平成24年3月3日～ 平成24年3月17日	外国出張
5	講師	生澤 繁樹	アメリカ	海外教育(特別)研究Bの引率のため	平成24年3月3日～ 平成24年3月17日	外国出張
6	特任講師	ブ라운・アヴァン・バーナート	オーストラリア	海外フィールド・スタディの現地指導	平成24年3月3日～ 平成24年3月11日	外国出張
7	教授	武嶋 俊行	ドイツ	ドイツにおける教師教育スタンダードの影響に関する調査	平成24年3月5日～ 平成24年3月11日	外国出張
8	教授	廣瀬 裕一	ドイツ	ドイツにおける教師教育スタンダードの影響に関する調査	平成24年3月5日～ 平成24年3月11日	外国出張
9	教授	松沢 要一	ドイツ	ドイツにおける教師教育スタンダードの影響に関する調査	平成24年3月5日～ 平成24年3月11日	外国出張
10	准教授	辻野 けんま	ドイツ	ドイツにおける教師教育スタンダードの影響に関する調査	平成24年3月5日～ 平成24年3月11日	外国出張
11	准教授	大前 敦巳	フランス	科研共同研究「学力格差是正政策の国際比較」(研究代表者:志水宏吉)の一環として、フランスのパリ市とナニエール市を対象に、教育優先地域を中心とする小中学校の学力格差是正政策に関する現地聞き取り調査を実行し、情報資料収集を行う	平成24年3月10日～ 平成24年3月18日	外国出張
12	准教授	土田 了輔	アメリカ	米国健康体育レクリエーションダンス連合にて研究発表	平成24年3月13日～ 平成24年3月18日	外国出張
13	准教授	堀 健志	シンガポール	研究成果の報告およびインタビュー調査	平成24年3月17日～ 平成24年3月22日	外国出張
14	教授	釜田 聡	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
15	特任准教授	金子 淳嗣	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
16	特任准教授	亀山 浩	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
17	特任准教授	清水 雅之	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
18	特任准教授	津野 治彦	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
19	特任准教授	渡辺 径子	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
20	教諭	千原 健志	アメリカ	教育実習と大学教育の調査, 統合学校の教育視察, ESDの基礎調査	平成24年3月21日～ 平成24年3月29日	外国出張
21	教授	細江 容子	台湾	ジェントロピー教育と調査等の打合せ	平成24年3月22日～ 平成24年3月25日	外国出張

	職名	氏名	渡航目的国	用務	期間	備考
22	教授	平野 絹枝	アメリカ	アメリカ国際応用言語学会に出席のため、及び言語テストに関する情報交換・資料収集のため	平成24年3月22日～ 平成24年3月29日	外国出張
23	教授	川村 知行	中国	中国の博物館における資料収集	平成24年3月25日～ 平成24年4月1日	海外研修
24	教授	西村 俊夫	台湾	新竹教育大学との交流展, 美術館教育活動の資料収集	平成24年3月28日～ 平成24年4月1日	外国出張
25	教授	北條 礼子	台湾	小学校英語資料収集	平成24年3月28日～ 平成24年4月1日	外国出張
26	准教授	五十嵐 史帆	台湾	新竹教育大学との交流展, 美術館教育活動の資料収集	平成24年3月28日～ 平成24年4月1日	外国出張
27	准教授	洞谷 亜里佐	台湾	新竹教育大学との国際交流展	平成24年3月28日～ 平成24年4月1日	外国出張
28	講師	伊藤 将和	台湾	台湾新竹教育大学視察のため	平成24年3月28日～ 平成24年4月1日	外国出張
29	准教授	原 瑞穂	韓国	海外教育(特別)研究Cの実施内容について、韓国教員大学校と事前打合わせ及び、ソウルの実践校高麗大学との事前打合わせ及び視察を行うため	平成24年4月3日～ 平成24年4月14日	外国出張
30	准教授	石川 真	カナダ	ICIRE2012への参加・発表(共同研究:協同・協調的な学習活動場面における学習者の認知とストレスの関連)及び情報収集	平成24年4月10日～ 平成24年4月15日	海外研修
31	教授	川村 知行	チェコ共和国	サパティカを活用した, 日本文化史の比較文化研究	平成24年4月21日～ 平成24年6月29日	海外研修
32	教授	高石 次郎	韓国	授業科目「海外教育(特別)研究C」の引率のため	平成24年4月24日～ 平成24年5月4日	外国出張
33	教授	黎 子椰	韓国	授業科目「海外教育(特別)研究C」の引率のため	平成24年4月24日～ 平成24年5月4日	外国出張
34	准教授	林田 秀一	カナダ	研究集会「26th Automorphic Forms Workshop」の参加, 講演	平成24年4月25日～ 平成24年5月1日	外国出張
35	教授	梅野 正信	韓国	第2回アジア世界史会議(2012年4月27日～29日)に出席・報告	平成24年4月26日～ 平成24年4月28日	外国出張

平成24年度上越教育大学学校教育学部入学試験の状況

() 内は女子で内数

区 分	推薦入試 (募集人員 50人)				一般入試 (募集人員 110人)				私費外国人留学生特別入試 (募集人員 若干人)				計 (募集人員 160人)			
	応募者	受験者	合格者	入学者	応募者	受験者	合格者	入学者	応募者	受験者	合格者	入学者	応募者	受験者	合格者	入学者
北海道					2	2	2	2					2	2	2	2
青 森	1	1			(2) 3	(1) 1	(1) 1	(1) 1					(2) 4	(1) 2	(1) 1	(1) 1
岩 手	(3) 5	(3) 5	2	2									(3) 5	(3) 5	2	2
宮 城																
秋 田	1	1											1	1		
山 形	(3) 4	(3) 4	(1) 1	(1) 1	(3) 4	(2) 2	(1) 1	(1) 1					(6) 8	(5) 6	(2) 2	(2) 2
福 島	(7) 8	(7) 8	(3) 3	(3) 3	(4) 13	(3) 7	(1) 5	(1) 5					(11) 21	(10) 15	(4) 8	(4) 8
茨 城					3	1	1	1					3	1	1	1
栃 木	(4) 5	(4) 5	(1) 2	(1) 2	(8) 19	(6) 11	(3) 6	(3) 5					(12) 24	(10) 16	(4) 8	(4) 7
群 馬	(3) 5	(3) 5	(2) 2	(2) 2	(16) 25	(8) 11	(6) 7	(6) 7					(19) 30	(11) 16	(8) 9	(8) 9
埼 玉					(2) 9	(2) 8	3	2					(2) 9	(2) 8	3	2
千 葉	(1) 1	(1) 1			(1) 3	(1) 3							(2) 4	(2) 4		
東 京	(1) 1	(1) 1			(2) 6	(1) 4	(1) 1	(1) 1					(3) 7	(2) 5	(1) 1	(1) 1
神奈川					(1) 1	(1) 1							(1) 1	(1) 1		
新 潟	(26) 46	(26) 42	(12) 21	(12) 21	(98) 191	(48) 99	(12) 33	(11) 31					(124) 237	(74) 141	(24) 54	(23) 52
富 山	(3) 5	(3) 5	(1) 2	(1) 2	(13) 26	(8) 14	(5) 7	(5) 7					(16) 31	(11) 19	(6) 9	(6) 9
石 川	(8) 13	(8) 13	(2) 4	(2) 4	(29) 56	(22) 40	(12) 17	(10) 15					(37) 69	(30) 53	(14) 21	(12) 19
福 井	(4) 7	(4) 7	(2) 2	(2) 2	(9) 18	(5) 14	(3) 11	(1) 8					(13) 25	(9) 21	(5) 13	(3) 10
山 梨	(1) 1	(1) 1			(3) 6	(2) 4							(4) 7	(3) 5		
長 野	(10) 20	(8) 18	(3) 6	(3) 6	(52) 104	(30) 57	(10) 21	(9) 19					(62) 124	(38) 75	(13) 27	(12) 25
岐 阜	(3) 4	(3) 4	1	1	(1) 4	1	1	1					(4) 8	(3) 5	2	2
静 岡	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(6) 8	(3) 4	(3) 3	(3) 3					(7) 9	(4) 5	(4) 4	(4) 4
愛 知	1	1	1	1	(6) 18	(5) 9	(5) 8	(4) 6					(6) 19	(5) 10	(5) 9	(4) 7
三 重					(1) 1								(1) 1			
滋 賀					(1) 2	1							(1) 2	1		
京 都																
大 阪																
兵 庫	1	1	1	1	2								3	1	1	1
奈 良	(1) 1	(1) 1			1	1							(1) 2	(1) 2		
和歌山																
鳥 取																
島 根																
岡 山	1	1	1	1	1								2	1	1	1
広 島																
山 口																
徳 島					1								1			
香 川																
愛 媛					1	1	1	1					1	1	1	1
高 知																
福 岡																
佐 賀																
長 崎					(1) 1	(1) 1							(1) 1	(1) 1		
熊 本					1	1							1	1		
大 分																
官 崎																
鹿 児 島																
沖 縄					(1) 1								(1) 1			
その他																
計	(79) 132	(77) 126	(28) 50	(28) 50	(260) 531	(149) 298	(63) 129	(56) 116	-	-	-	-	(339) 663	(226) 424	(91) 179	(84) 166
	応募者/合格者 2.6倍 男 44.0% 女 56.0%				応募者/合格者 4.1倍 男 51.7% 女 48.3%				応募者/合格者 3.7倍 男 49.4% 女 50.6%							

○平成24年度 大学院学校教育研究科入学試験状況

■ 課程・専攻・コース別

課程	専攻・コース	前期募集 (試験日:23.8.27)					中期募集 (試験日:23.11.26)					後期募集 (試験日:24.3.2)					合 計				
		募集人員	応募者	受験者	合格者	入学者	募集人員	応募者	受験者	合格者	入学者	募集人員	応募者	受験者	合格者	入学者	入学定員	応募者	受験者	合格者	入学者
修士課程	学校教育専攻	96	111	105	99	78	33	39	35	29	23	29	24	21	16	16	120	174	161	144	117
	学校臨床研究コース	54	53	48	48	40	22	25	24	23	19	14	6	6	6	6	[70]	84	78	77	65
	臨床心理学コース	18	29	29	23	15	若干人	9	7	3	1	5	9	7	2	2	[18]	47	43	28	18
	幼児教育コース	5	2	2	2	2	5	1	1	1	1	5	3	3	3	3	[7]	6	6	6	6
	特別支援教育コース	19	27	26	26	21	6	4	3	2	2	5	6	5	5	5	[25]	37	34	33	28
	教科・領域教育専攻	104	90	88	75	59	61	47	43	35	28	39	31	22	19	16	130	168	153	129	103
	言語系コース	20	31	31	26	21	5	11	10	7	5	若干人	11	9	7	6	[25]	53	50	40	32
	社会系コース	18	10	10	7	4	16	6	6	5	3	13	2	1	1		[23]	18	17	13	7
	自然系コース	22	24	23	18	16	9	12	12	8	6	6	8	6	6	6	[27]	44	41	32	28
	芸術系コース	22	7	7	7	7	20	9	7	7	7	14	5	3	3	2	[27]	21	17	17	16
生活・健康系コース	22	18	17	17	11	11	9	8	8	7	6	5	3	2	2	[28]	32	28	27	20	
小 計	200	201	193	174	137	94	86	78	64	51	68	55	43	35	32	250	342	314	273	220	
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	40	46	45	45	39	18	35	34	33	29	9	14	13	13	12	50	95	92	91	80
	教育実践リーダーコース	24	38	37	37	31	6	32	31	30	26	若干人	13	12	12	11	[30]	83	80	79	68
	学校運営リーダーコース	16	8	8	8	8	12	3	3	3	3	9	1	1	1	1	[20]	12	12	12	12
	小 計	40	46	45	45	39	18	35	34	33	29	9	14	13	13	12	50	95	92	91	80
合 計	240	247	238	219	176	112	121	112	97	80	77	69	56	48	44	300	437	406	364	300	

※1 入学定員の〔〕内は、標準学生数を示す。

2 ()内は、現職教員で3年以上の教職経験者数を示し内数である。

3 応募者数は、専攻・コースごとに原則として第1志望の人数を計上しているが、第2志望での合格者は合格した専攻・コースへの応募者として計上している。

■ 都道府県別

区分	前期募集				中期募集				後期募集				合計			
	応募者	受験者	合格者	入学者	応募者	受験者	合格者	入学者	応募者	受験者	合格者	入学者	応募者	受験者	合格者	入学者
北海道	3	3	3	3	2	2	2	2					5	5	5	5
青森県	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1) 1					2	2	2	2	(1) 3	(1) 3	(1) 3	(1) 3
岩手県	4	4	3		2	2	2	2					6	6	5	2
宮城県	4	4	4	4	(2) 3	(2) 3	(2) 3	(2) 3					(2) 7	(2) 7	(2) 7	(2) 7
秋田県	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1) 1									(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1) 1
山形県	2	1	1	1	1	1	1	1	4	3	3	3	7	5	5	5
福島県	(2) 5	(2) 5	(2) 4	(2) 2	(1) 4	(1) 4	(1) 3	(1) 3					(3) 9	(3) 9	(3) 7	(3) 5
茨城県	4	4	4	1					2	1	1	1	8	5	5	2
栃木県	4	4	4	4	1				2	2	2	2	7	6	6	6
群馬県	3	3	3	3	(4) 5	(4) 5	(4) 5	(4) 5	2	2	1		(4) 10	(4) 10	(4) 9	(4) 8
埼玉県	23	20	18	13	9	8	6	6	4	2	2	2	38	30	26	21
千葉県	6	6	4	2	6	6	6	6	1	1	1	1	13	13	11	9
東京都	50	48	43	32	32	30	25	20	14	10	8	7	98	88	76	59
神奈川県	6	6	6	5	(1) 8	(1) 7	4	2	3	2	2	2	(1) 17	(1) 15	12	9
新潟県	(40) 59	(40) 58	(40) 57	(40) 58	(2) 21	(1) 18	(1) 17	(1) 12	(10) 17	(10) 17	(10) 17	(10) 18	(52) 97	(51) 93	(51) 91	(51) 84
富山県	(2) 11	(2) 10	(2) 10	(2) 9					3	3	1	1	(2) 14	(2) 13	(2) 11	(2) 10
石川県	10	10	9	7	3	2	2	1	1				14	12	11	8
福井県	1	1	1										1	1	1	
山梨県	5	5	5	3	2	2	2	2					7	7	7	5
長野県	(3) 10	(3) 10	(3) 10	(3) 7	4	4	3	3					(3) 14	(3) 14	(3) 13	(3) 10
岐阜県	4	4	3	2	1	1	1						5	5	4	2
静岡県	4	4	4	4	(2) 4	(2) 4	(2) 4	(2) 3					(2) 8	(2) 8	(2) 8	(2) 7
愛知県	(1) 6	(1) 6	(1) 4	(1) 4	3	3	3	2	2	1			(1) 11	(1) 10	(1) 7	(1) 6
三重県					1	1	1	1					1	1	1	1
滋賀県	1	1	1						2	2	2	2	3	3	3	2
京都府	1	1			1	1	1	1	1				3	2	1	1
大阪府	5	4	4	2									5	4	4	2
兵庫県	2	2	2										2	2	2	
奈良県	1	1	1	1	1	1	1	1					2	2	2	2
和歌山県																
鳥取県																
島根県									1	1	1	1	1	1	1	1
岡山県					1	1			1				2	1		
広島県	1	1	1	1					1	1	1		2	2	2	1
山口県																
徳島県																
香川県																
愛媛県																
高知県																
福岡県					2	2	2	1					2	2	2	1
佐賀県																
長崎県																
熊本県	1	1	1	1									1	1	1	1
大分県	1	1	1	1									1	1	1	1
宮崎県																
鹿児島県																
沖縄県	(1) 4	(1) 4	(1) 4	(1) 4									(1) 4	(1) 4	(1) 4	(1) 4
外国	4	4	2	2	4	4	3	3	8	6	4	4	14	14	9	9
計	(51) 247	(51) 238	(51) 219	(51) 176	(12) 121	(11) 112	(10) 97	(10) 80	(10) 69	(10) 56	(10) 48	(10) 44	(73) 437	(72) 408	(71) 384	(71) 300

注)1 ()内は、現職教員(3年以上の教職経験を有する者)を内数で示す。

主要日誌

■大学

月 日	事 項
3月1日 (木)	第1回卒業生・修了生に対する研究助成選考委員会
3月2日 (金)	平成24年度大学院入試 (後期募集)
3月3日 (土)	平成23年度海外教育(特別)研究B(アメリカ合衆国:アイオワ大学 他)(~3月17日)
3月5日 (月)	第14回入学試験委員会 第7回学生委員会
3月6日 (火)	第138回教授会 平成23年度第2回全学教職員集会 平成23年度上越教育大学国際交流のつどい
3月7日 (水)	第12回衛生委員会
3月8日 (木)	平成24年度学部一般入試 (前期日程) 合格者発表 平成23年度課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修 (3/9 (金))
3月9日 (金)	第5回地域連携推進室会議 第11回国際交流推進室会議
3月12日 (月)	平成24年度学部一般入試 (後期日程) 第4回男女共同参画推進委員会 第2回セクシュアル・ハラスメント等人権侵害対策委員会
3月13日 (火)	第6回教育実習委員会 第1回学校教育実践研究センター運営委員会
3月14日 (水)	第121回教育研究評議会 第15回入学試験委員会 第2回研究プロジェクト成果発表会 第14回教務委員会
3月15日 (木)	第139回教授会 第4回学術研究委員会 第4回就職委員会
3月16日 (金)	第22回情報・広報委員会 第2回CST養成事業実施委員会 平成24年度大学院入試 (後期募集) 合格者発表 第3回附属学校運営委員会
3月19日 (月)	学長と平成23年度修了留学生との懇談会
3月21日 (水)	第140回教授会 第16回入学試験委員会
3月22日 (木)	平成24年度学部一般入試 (後期日程) 合格者発表
3月23日 (金)	第34回経営協議会 第69回役員会
3月26日 (月)	退職者永年勤続表彰状授与式
3月27日 (火)	第12回国際交流推進室会議 第3回セクシュアル・ハラスメント等人権侵害対策委員会
3月28日 (水)	第22回カリキュラム企画運営会議
4月4日 (水)	第1回学校教育実践研究センター運営委員会
4月5日 (木)	第1回教育実習委員会
4月6日 (金)	平成24年度入学式 平成24年度新入生オリエンテーション
4月9日 (月)	平成24年度新入生図書館利用ガイダンス(~4/13 (金)) 平成24年度新入生オリエンテーション
4月10日 (火)	第1回教員免許状更新講習実施委員会 新入生ノートパソコン準備講習会 (~4/24 (火)※土・日を除く) 第1回教育実習連絡会

4月11日 (水)	情報セキュリティ講演会 留学生オリエンテーション CST養成プログラム受講希望学生への説明会 第1回衛生委員会 第1回教育実習協力校(園)会議
4月17日 (火)	平成24年度文献の探し方ガイダンス (~4/20(金), 24(火)~25
4月18日 (水)	第122回教育研究評議会 第41回大学改革委員会 第1回入学試験委員会 平成24年度留学生の花見会
4月19日 (木)	第1回学校ボランティア支援室会議
4月20日 (金)	平成24年度新入生合宿研修 (~4/21(土))
4月23日 (月)	第24回評価支援室会議 附属図書館利用案内全体会
4月24日 (火)	第1回学術研究委員会 平成24年度海外教育(特別)研究C(韓国:韓国教員大学校)(~5月4日(金))
4月25日 (水)	第141回教授会 第1回学生委員会 第1回ボランティア体験連絡会
4月26日 (木)	第23回情報・広報委員会 第1回教員研修モデルカリキュラム開発プログラム連携協議会 第23回カリキュラム企画運営会議
4月27日 (金)	第1回国際交流推進室会議

■附属幼稚園

月 日	事 項
3月5日 (月)	平成24年度入園児選考検査 (欠員募集)
3月15日 (木)	第18回修了証書授与式
3月16日 (金)	第3学期終業式
3月26日 (月)	離任式
4月1日 (日)	開園記念日
4月5日 (木)	一日入園
4月6日 (金)	新任式 第1学期始業式
4月7日 (土)	第21回入園式

■附属小学校

月 日	事 項
3月6日 (火)	第2回学校評議員会
3月15日 (木)	第3学期終業式
3月16日 (金)	第31回卒業証書授与式
3月17日 (土)	欠員募集入学選考
3月26日 (月)	離任式
4月1日 (日)	開校記念日
4月9日 (月)	新任式, 第1学期始業式, 入学式
4月10日 (火)	5・6年PTA
4月12日 (木)	発育測定
4月13日 (金)	3・4年PTA
4月16日 (月)	2年PTA, 1・3・5年視力聴力検査
4月17日 (火)	1年PTA, 全国学力・学習状況調査
4月18日 (水)	1年生を迎える会, ぎょう虫検査
4月19日 (木)	歯科検診
4月20日 (金)	2・4・6年視力聴力検査
4月24日 (火)	第1回研究協力者会
4月25日 (水)	ふれあいデー
4月27日 (金)	第1回避難訓練, 3・4年内科検診

■附属中学校

月 日	事 項
3月1日 (木)	第2回学校評議員会
3月3日 (土)	第31回卒業式
3月13日 (火)	2年沖繩修学旅行
3月14日 (水)	2年沖繩修学旅行
3月15日 (木)	2年沖繩修学旅行
3月16日 (金)	2年沖繩修学旅行
3月23日 (金)	3学期終業式
3月26日 (月)	離任式, 転入学試験・判定会議
4月1日 (日)	開校記念日
4月9日 (月)	新任式, 1学期始業式, 第32回入学式
4月10日 (火)	発育測定
4月12日 (木)	学力検査
4月13日 (金)	2・3学年PTA
4月16日 (月)	1年内科検診
4月17日 (火)	3年全国学力・学習状況調査
4月18日 (水)	尿検査
4月20日 (金)	PTA運営委員会, PTA総会, 後援会総会
4月23日 (月)	2年内科検診, 第1回避難訓練
4月24日 (火)	3年内科検診, 第1回指導者打合会
4月26日 (木)	歯科検診
4月27日 (金)	全校集会 (任命式), 生徒総会



上越教育大学学報

第 120 号 平成 24 年 5 月 10 日発行

上越教育大学総務部総務課

〒943-8512 上越市山屋敷町 1 番地

電話 025-521-3214 / 3215